

2025年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2024年11月6日
株式会社エフピコ

証券コード：7947

本資料取り扱いのご注意



掲載する情報に関しまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料に掲載する情報の、**無断での引用や転載、複製は禁じられております。**

- **2025年3月期 第2四半期決算概要 … 4**
- **企業価値拡大に向けて … 11**
- **添付資料 … 50**

2025年3月期 第2四半期 決算概要

専務取締役 経理財務本部本部長
池上 功

決算概要

(2025年3月期 第2四半期累計実績)

単位: 百万円	上期 実績							上期 計画			通期 期初計画		
	2024年3月期		2025年3月期					2025年3月期			2025年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	増減	前年比	数量	計画	構成比	計画比	計画	構成比	進捗率
トレー	20,640	19.0	21,072	18.3	+431	102.1%	100.5%	21,673	18.7	97.2%	44,455	18.8	47.4%
弁当・惣菜	62,860	57.8	64,967	56.5	+2,106	103.4%	103.3%	65,153	56.2	99.7%	131,524	55.7	49.4%
小計	83,501	76.8	86,040	74.9	+2,538	103.0%	102.4%	86,826	74.9	99.1%	175,979	74.6	48.9%
その他製品	1,980	1.8	1,591	1.4	△389	80.3%		1,884	1.6	84.5%	3,831	1.6	41.5%
製品売上高	85,482	78.6	87,631	76.3	+2,149	102.5%		88,710	76.5	98.8%	179,810	76.2	48.7%
包装資材	22,014	20.2	26,235	22.8	+4,221	119.2%		26,084	22.5	100.6%	53,750	22.8	48.8%
その他商品	1,229	1.1	1,025	0.9	△204	83.4%		1,206	1.0	85.0%	2,440	1.0	42.0%
商品売上高	23,244	21.4	27,261	23.7	+4,017	117.3%		27,290	23.5	99.9%	56,190	23.8	48.5%
売上高	108,726	100.0	114,892	100.0	+6,166	105.7%		116,000	100.0	99.0%	236,000	100.0	48.7%
営業利益	6,981	6.4	6,472	5.6	△509	92.7%		6,400	5.5	101.1%	17,800	7.5	36.4%
経常利益	7,235	6.7	6,520	5.7	△715	90.1%		6,500	5.6	100.3%	18,000	7.6	36.2%
親会社株主に帰属 する中間純利益	5,122	4.7	4,337	3.8	△784	84.7%		4,361	3.8	99.5%	12,122	5.1	35.8%
償却前経常利益	14,816		13,967		△848	94.3%		13,950		100.1%	32,800		42.6%



過去最高
10期連続増収

◇販売

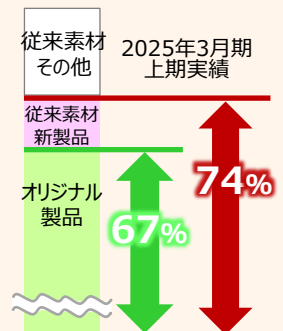
製品>

- ・エコ製品や低発泡容器など付加価値の高い製品の販売が堅調
- ・販売数量 前年同期比 102.4%、うち2Q 103.0%と順調に推移
- ・製品価格改定効果が一部反映

商品>

- ・当社グループのインフラを活用した効率化提案
- ・アベックスのM&A効果

◇製品売上構成比（枚数ベース）



◇前年比

	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	下期 計画	通期 計画
製品売上高	99.8%	105.1%	102.5%	105.7%	104.8%
商品売上高	117.6%	117.0%	117.3%	106.2%	111.4%
経常利益	69.2%	107.1%	90.1%	120.5%	107.3%
製品枚数	101.8%	103.0%	102.4%	100.0%	102.5%

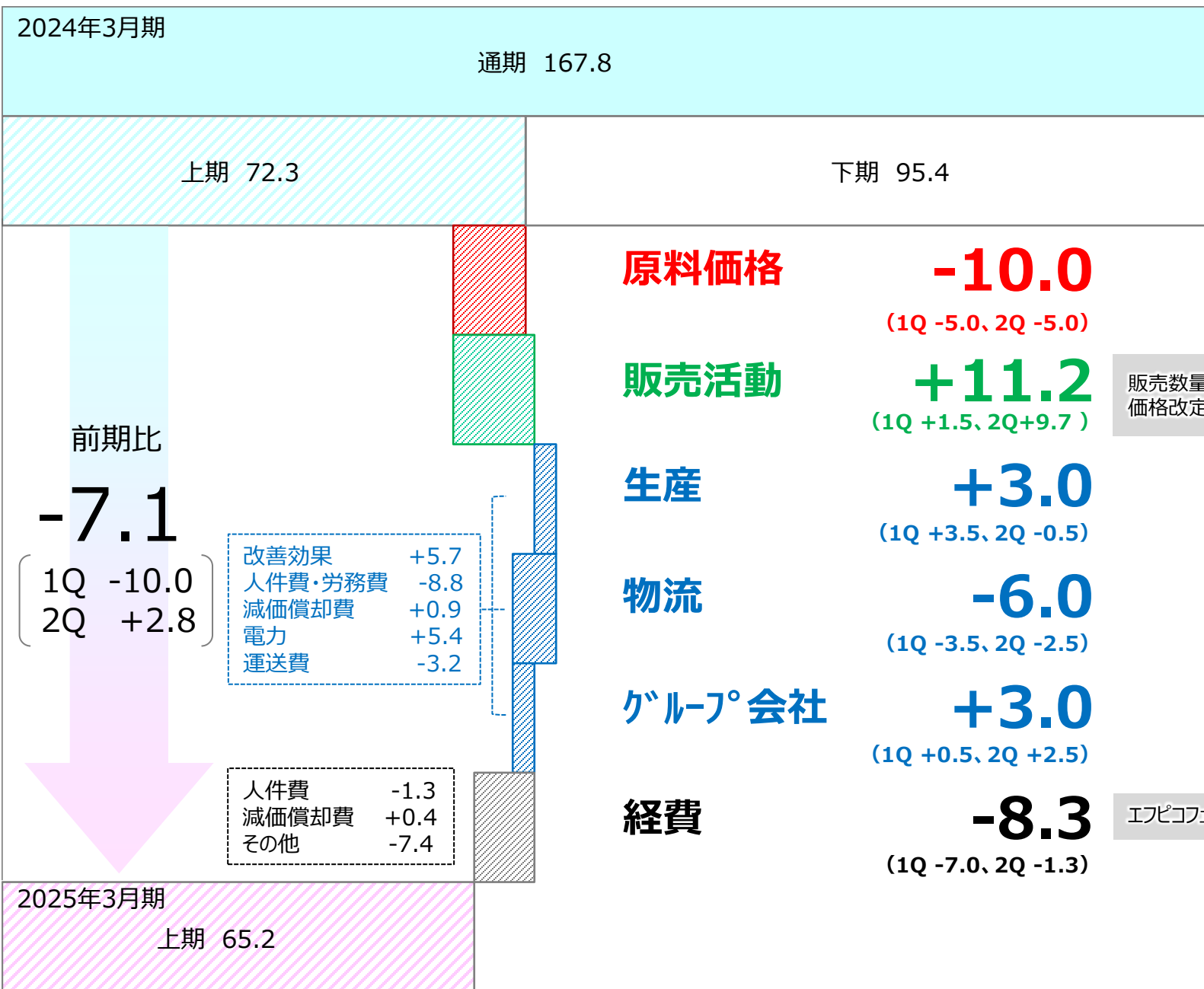
◇経常利益率

経常利益率	4.1%	7.2%	5.7%	9.6%	7.6%
-------	------	------	------	------	------

経常利益 利益増減 実績

(2025年3月期 第2四半期累計)

単位：億円



原料価格

-10.0

(1Q -5.0、2Q -5.0)

販売活動

+11.2

(1Q +1.5、2Q +9.7)

販売数量の回復
価格改定効果の一部反映

生産

+3.0

(1Q +3.5、2Q -0.5)

物流

-6.0

(1Q -3.5、2Q -2.5)

グループ会社

+3.0

(1Q +0.5、2Q +2.5)

経費

-8.3

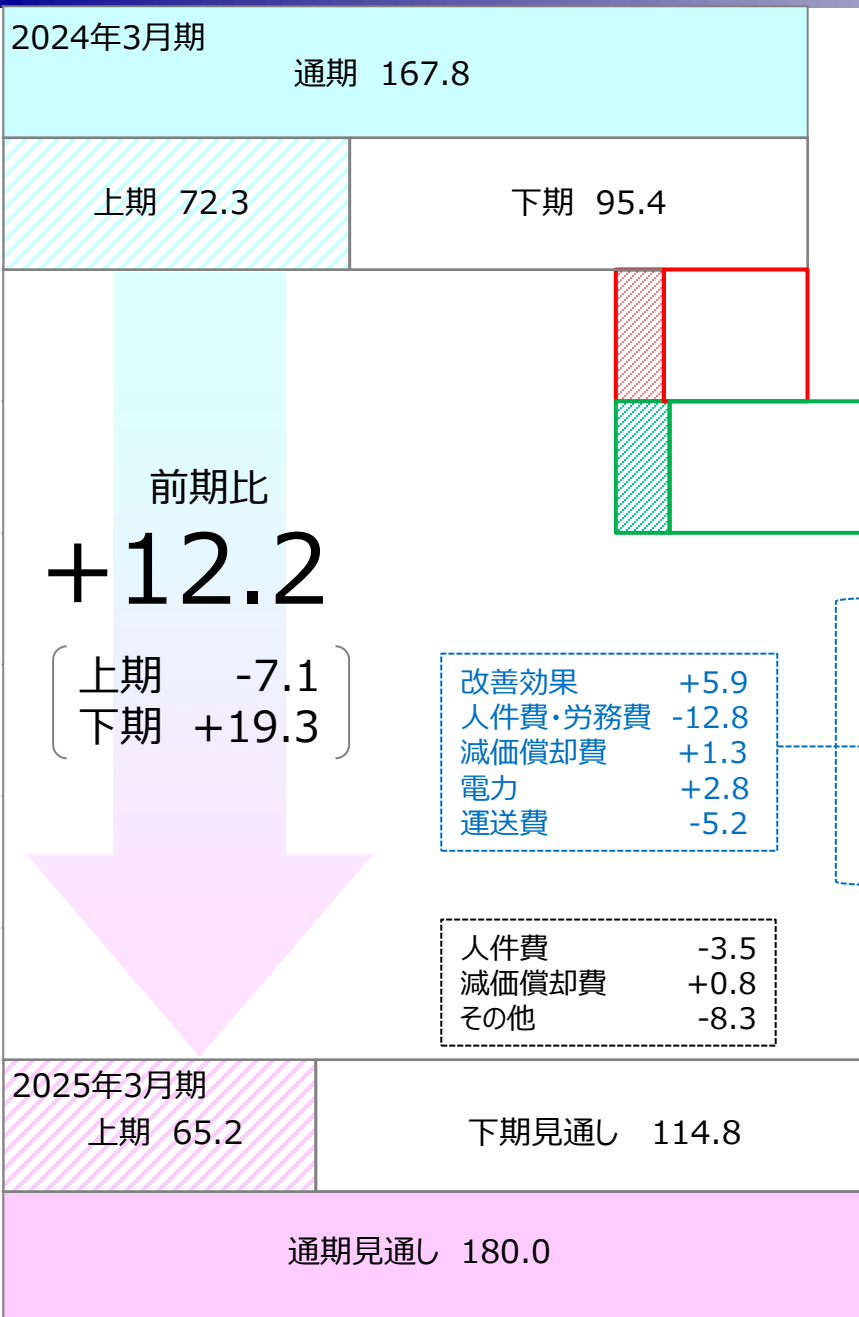
(1Q -7.0、2Q -1.3)

エピコフェアの開催時期変更

経常利益 利益増減 見通し (2025年3月期計画)

第2四半期時点

単位：億円



原料価格

-40.0

川上メーカーによるユーティリティコスト転嫁

(上期 -10.0、下期 -30.0)

販売活動

+71.2

価格改定が反映

※製品販売価格改定の影響含む

(上期 +11.2、下期 +60.0)

生産

-2.0

(上期 +3.0、下期 -5.0)

物流

-10.0

(上期 -6.0、下期 -4.0)

グループ会社

+4.0

(上期 +3.0、下期 +1.0)

経費

-11.0

(上期 -8.3、下期 -2.7)

設備投資・研究開発費

(2025年3月期 第2四半期累計実績)

単位: 百万円	上期 実績				上期 計画		通期 計画	
	2024年3月期 実績	2025年3月期			2025年3月期		2025年3月期	
		実績	増減	前年比	計画	計画比	計画	進捗率
有形固定資産	3,305	8,384	+5,079	253.7%	7,400	113.3%	14,500	57.8%
無形固定資産	174	193	+19	111.0%	100	193.6%	500	38.7%
設備投資	3,479	8,578	+5,098	246.5%	7,500	114.4%	15,000	57.2%
減価償却費	7,580	7,447	△133	98.2%	7,450	100.0%	14,800	50.3%
研究開発費	640	762	+122	119.1%	803	95.0%	1,610	47.4%

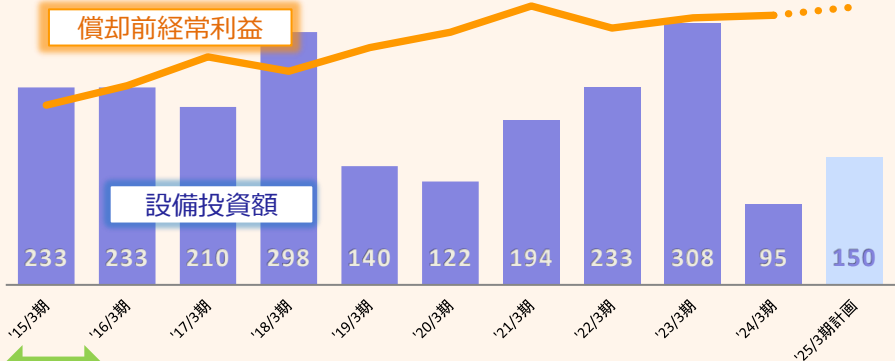
【主な設備投資】

オリジナル製品への投資：エコAPET製品の生産能力・品質向上

◆ エコAPET原料 生産性向上 (関東・中部)	780	780	44
◆ エコAPET原料 生産能力増強 (NPR)	899	899	58
◆ エコAPET製品 生産能力増強	973	973	540
販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備			
◆ 自動化設備の導入		429	86
◆ 従来素材製品能力増強		890	524

◆ 関西選別センター	2024年 10月 稼働	944	753	691
◆ グループ会社生産拠点の増強				
ダンボール工場増床	2024年 8月 稼働	3,527	1,473	1,331
◆ 金型			1,872	809
◆ IT投資			525	217
◆ 選別能力増強 透明トレ選別装置		225	150	29

◇指標の推移



貸借対照表

(2025年3月期 第2四半期累計実績)

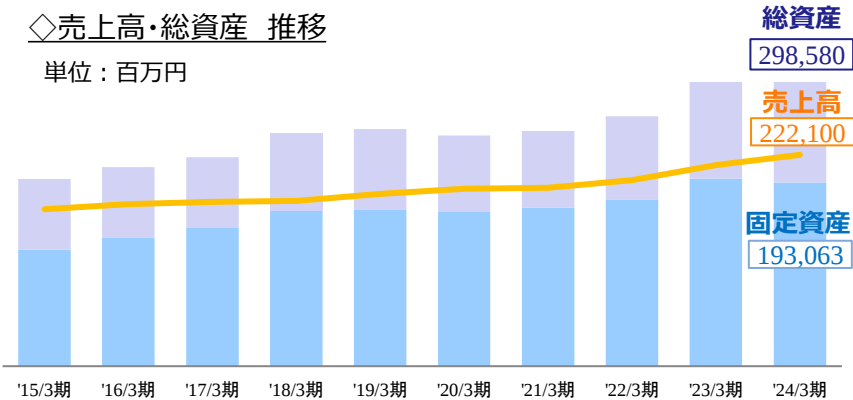
単位: 百万円	前連結会計年度	上期			
	2024年3月期 2024/3/31	2024/9/30	増減	2025年3月期 前年比	主な増減内訳
流動資産	105,516	96,322	△9,194	91.3%	現金及び預金 △5,437 受取手形及び売掛金 △4,115
固定資産	193,063	194,363	+1,299	100.7%	建物及び建築物 +683
資産合計	298,580	290,686	△7,894	97.4%	
流動負債	86,201	80,600	△5,600	93.5%	支払手形及び買掛金 △1,582 短期借入金 △1,545
固定負債	66,534	62,419	△4,114	93.8%	長期借入金 △4,266
負債合計	152,735	143,020	△9,715	93.6%	
純資産合計	145,844	147,666	+1,821	101.2%	利益剰余金 +1,497
負債純資産合計	298,580	290,686	△7,894	97.4%	

自己資本比率 50.6%

- 資産 オリジナル製品の能力増強と安定供給への戦略投資
取引先への効率化提案に向けたインフラの活用
- 負債 戦略投資の原資として借入金の活用
- 純資産 低利での資金調達に向けたA格の維持
株主還元の充実強化

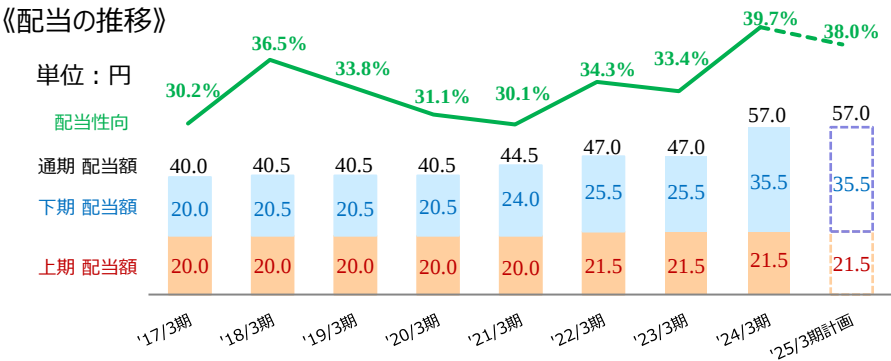
◇売上高・総資産 推移

単位: 百万円



単位: 百万円	上期		
	2024年3月期 実績	実績	2025年3月期 主な内訳
営業活動によるC/F	14,021	11,637	税金等調整前中間純利益 6,472 減価償却費 7,447 法人税等の支払額 △ 2,473
投資活動によるC/F	△ 6,912	△ 8,205	有形固定資産の取得 △ 7,767
フリーキャッシュフロー	7,109	3,431	
財務活動によるC/F	△ 7,162	△ 9,262	長期借入金の純増減 △ 5,811 配当金の支払 △ 2,867
現金及び現金同等物の増減額	△ 52	△ 5,830	
現金及び現金同等物の期末残高	22,202	18,269	

- 営業CF オリジナル製品販売と合理化による利益確保
- 投資CF 収益基盤整備に向けた戦略投資
製品・サービスの拡充、物流インフラの活用に向けたM&A
- 財務CF 株主還元の充実強化
2024年1月 配当性向の引き上げ 30% → 40%
2024年2月 自己株式の取得を実施 30億円



※当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2017年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、配当金額を記載しております。

企業価値拡大に向けて

代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表
佐藤 守正

01. 価格改定/原料動向

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ 安定供給

03. 成長戦略

01. 価格改定/原料動向

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ 安定供給

03. 成長戦略

製品価格改定

2024年4月吉日

お取引先各位

株式会社エフピコ

価格改定のお願い

謹啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素はひとかたならぬご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、弊社は2021年10月、2022年4月に相次いで「価格改定のお願い」を発表し、弊社製造製品について価格改定を実施させていただきましたが、その後、電力料金が急騰し、過去に例のない水準で高止まっております。また、原油価格の動向や円安の更なる進行により国産ナフサ及びベンゼンも高値圏で推移し、川上メーカーによるユーティリティコストの転嫁も含めて、弊社グループ製品主要原料であるポリスチレンをはじめとする原料全般の値上がりも続いております。さらに、労務費や物流の2024年問題を背景とした物流費等も増加しております。

このような状況下、弊社といたしましては使用済み容器など回収原料の調達量拡大に加え、生産部門における自動化、物流部門における積載効率改善、製品アイテム数の適正化などあらゆる部門で合理化の取り組みを実施しておりますが、大幅な電力料金や原料価格の高騰を自助努力で吸収することが極めて困難な状況にあります。

つきましては、誠に不本意ではございますが、下記のとおり弊社製品の価格改定実施をお願いしたく、何卒事情ご賢察の上、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 対象品目・価格改定幅

弊社製造製品全般 : 15%以上

2. 実施時期

2024年7月1日出荷分より

価格改定の詳細につきましては、弊社営業担当者がお伺いした上でご説明申し上げます。

以上

2024年4月30日 リリース

1. 対象品目・価格改定幅

弊社製造製品全般 : 15%以上

2. 実施時期

2024年7月1日出荷分より

価格改定の状況と電力価格の高騰

製品価格改定

2021/10/29発表

12/1出荷分より 10%以上

第一次
発表

見積
提示

2022/4~
完全実施

製品価格改定

2022/4/28発表

6/1出荷分より 15%以上

第二次
発表

見積
提示

2022/10~
完全実施

製品価格改定

2024/4/30 発表

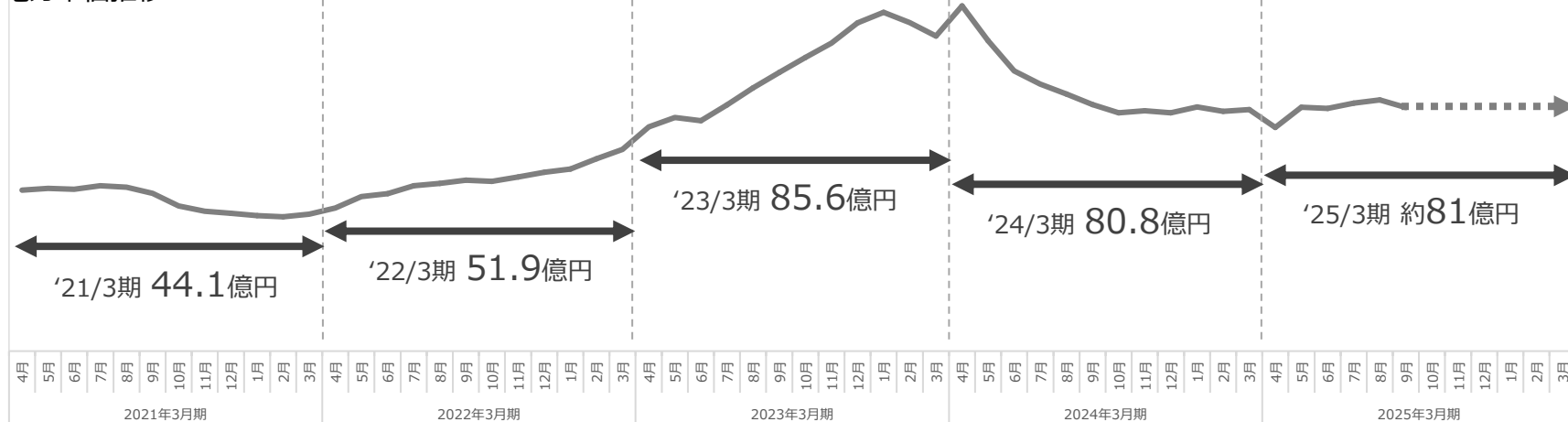
7/1出荷分より 15%以上

第三次
発表

見積
提示

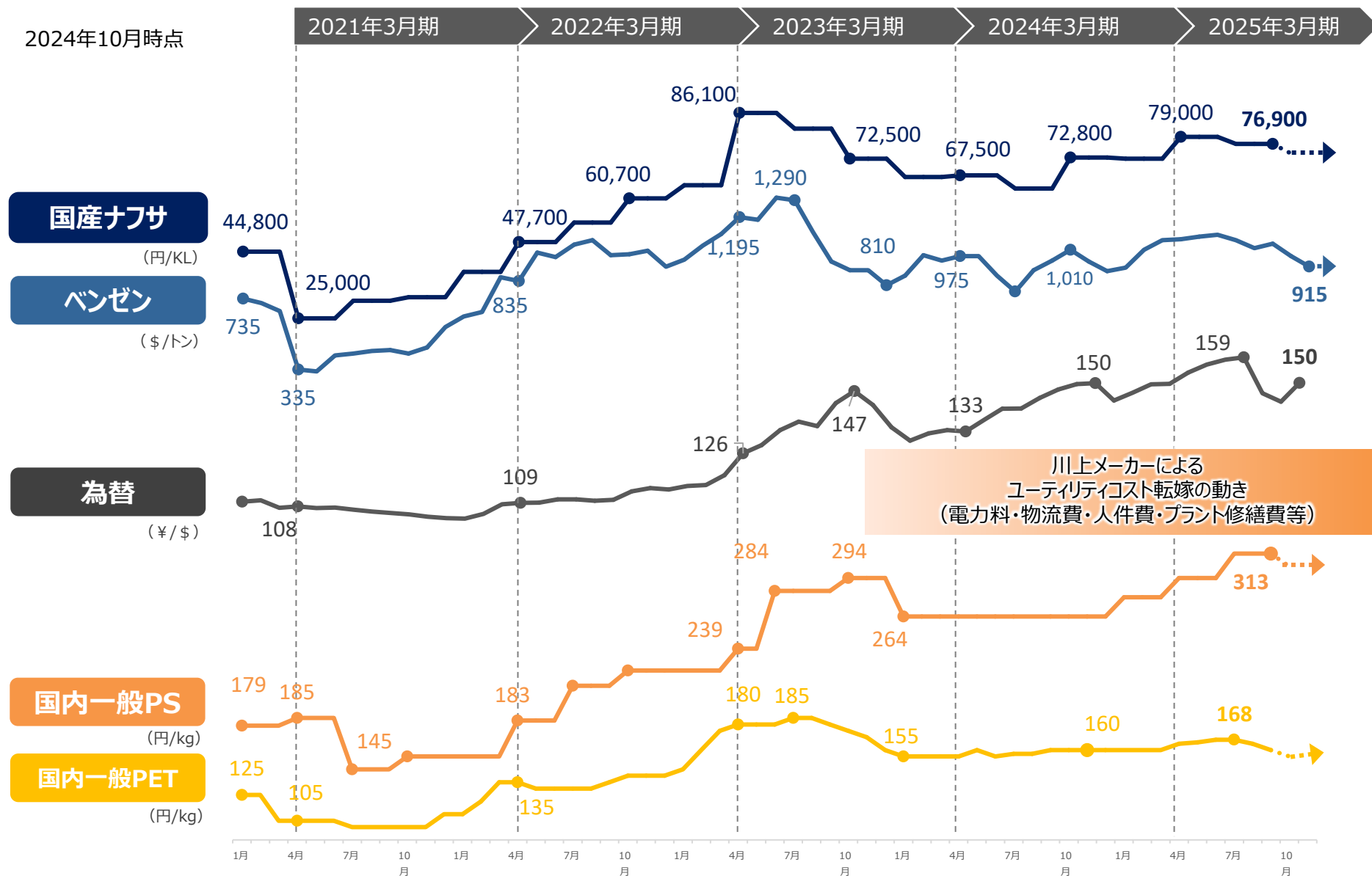
2Q一部反映
2024/10~
完全実施

電力単価推移



原料価格の高騰

2024年10月時点



01. 価格改定/原料動向

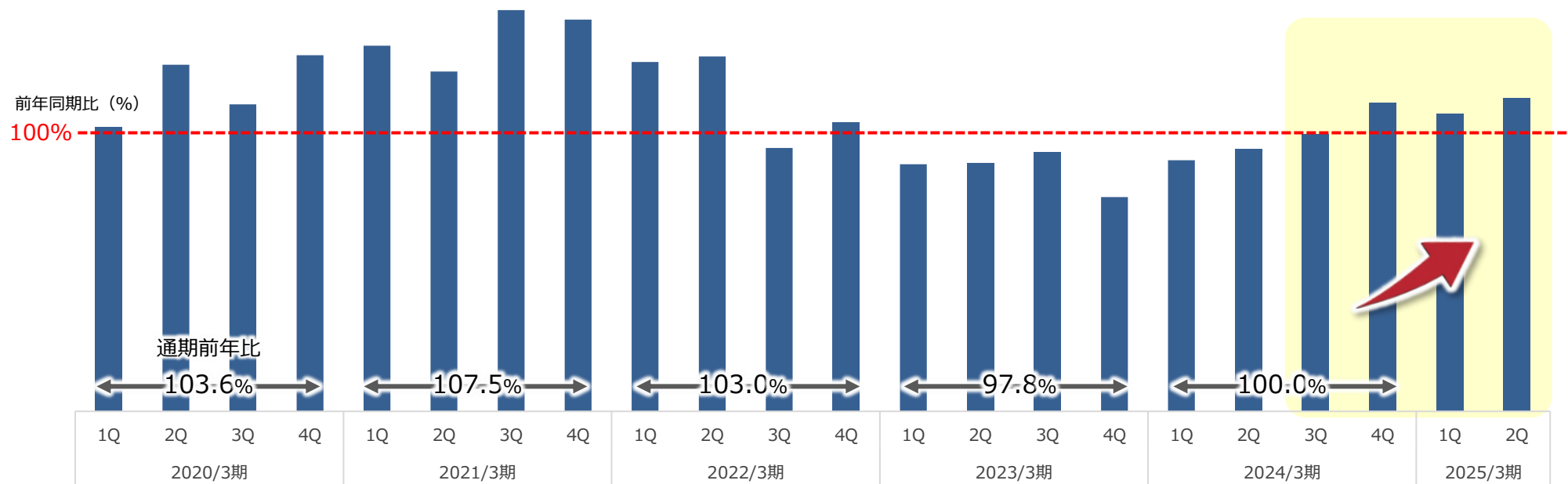
02. **エフピコの競争優位性**

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ 安定供給

03. 成長戦略

製品販売数量の回復

年平均成長率 2～3%で推移



コロナウイルスによる行動制限

内食需要の拡大

反動減

食品を中心とした幅広い物価上昇

人手不足の顕在化

環境意識の高まり

人手不足対応① 急加速する自動化・機械化への対応

惣菜PC*の一般的な製造工程

*PC：プロセスセンター

容器供給

盛付け

蓋閉め・トップシール

ラベル貼り

コンテナ収納・輸送

自動容器供給機

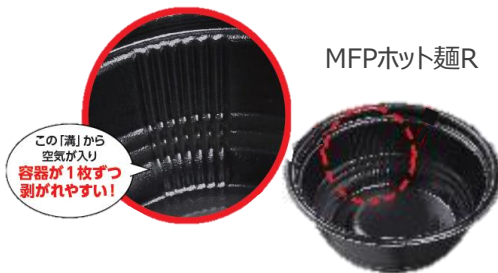


まとめてセットされた容器から一枚ずつ供給

- 多様な容器サイズ・形状に対応
- 複数の装置（充填機等）との連動が可能

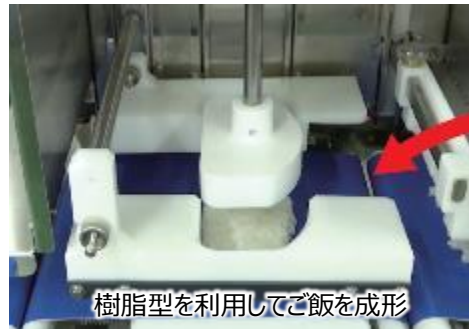
提案

剥離性のある容器



MFPホット麺R

自動飯盛り機



樹脂型を利用してご飯を成形

- ライン人員 最大3名削減
- 多様な形状の容器に盛付け可能

提案

PC供給もインスタも統一できる容器



MSDレイア

自動蓋閉め機・トップシール機

【自動蓋閉め機】

吸盤で蓋を供給・被せ・嵌合する

- はめ込む際の正確な位置決め
- パチッと嵌合する絶妙な押し込み



提案

変形しにくい強度のある容器



APデリオ

【トップシール機】

- 最大1,500パック/時 製造可能



提案

トップシールと蓋を併用できる内嵌合容器



AP-TS丸

人手不足対応② ツマ削減容器

ツマ削減容器

出荷実績推移（枚数ベース）



Sステージ



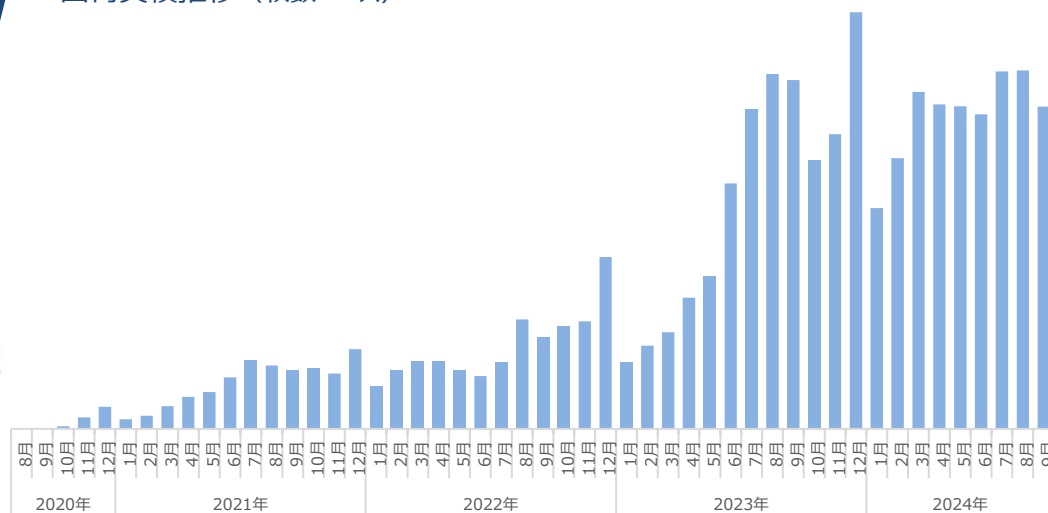
長角鉢TZ

ツマあり

80g

ツマなし

0g



① 盛付け時間の短縮



刺身の加工時間/日

8MH → 6MH

月間約**800**万円の削減

※関西A社様事例(160店舗)

※MH(人時生産性)：仕事を1人で全て行ったと仮定した場合の作業時間

② ツマ代の削減



月間約**600**万円の削減

※関西A社様事例(160店舗)

③ 食品ロスの削減



プラスチック使用量削減① 低発泡化容器

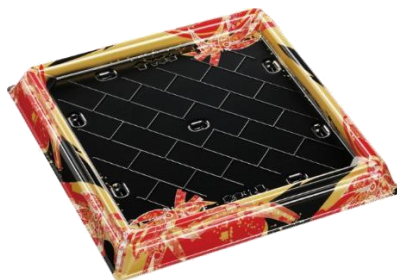
低発泡PSPシート × 成形技術 による 「新低発泡PSP容器」

非発泡容器（HIPS）と比較して

プラスチック使用量を最大約**60%削減**



祝賀桶PT



プラスチック使用量（HI製品本体比）

約**60%削減**

氷河桶PT



約**60%削減**

涼角



約**40%削減**

麗角



約**50%削減**

今後も 低発泡化容器のシリーズ展開を進める

プラスチック使用量削減② 低発泡の桶シリーズが伸長

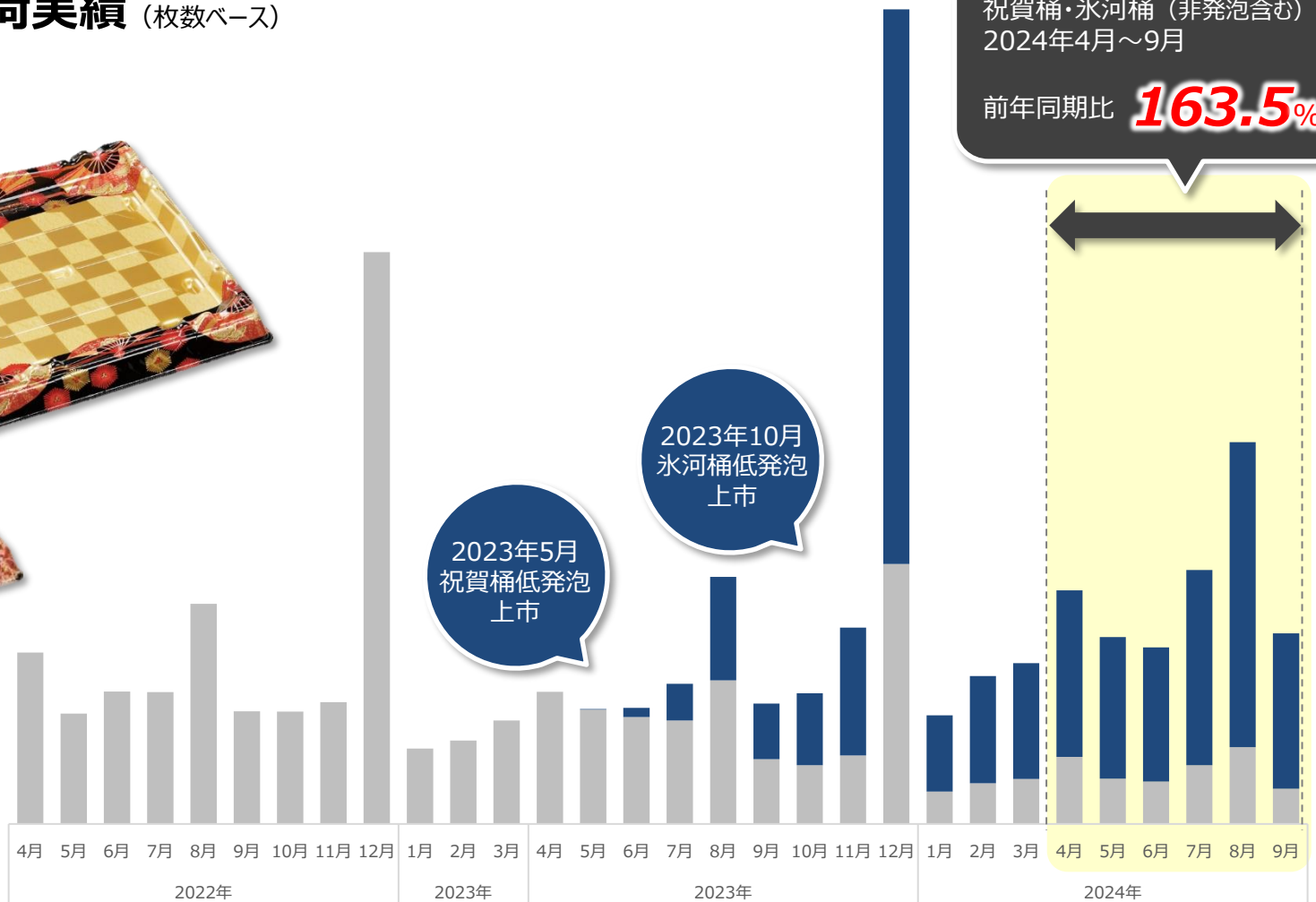
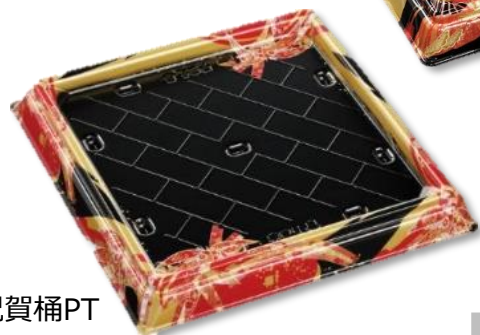
祝賀桶・氷河桶 出荷実績 (枚数ベース)

■ 低発泡
■ 非発泡

氷河桶PT



祝賀桶PT



プラスチック使用量削減③ 惣菜容器を全面刷新

80型・220アイテムを順次切替

従来

AP惣菜 ▶▶

NEW

APデリオ

従来

MSD惣菜 ▶▶

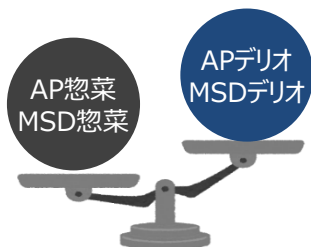
NEW

MSDデリオ



プラスチック使用量削減

平均約 **10.3%**削減



▶APデリオ

約**13.1%**削減

▶MSDデリオ

約**7.5%**削減

強度の確保

自動蓋閉め機・手閉め
どちらにも対応する強度



汁漏れしにくい



プラスチック使用量削減④ 耐寒容器

新素材「耐寒PPiP-タルク™」を開発

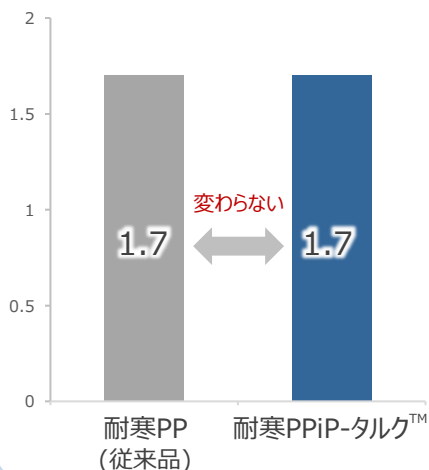
2種類の無機物を均一に分散配合することで、
従来品の耐寒PPと比較して**耐寒衝撃性、天地圧縮強度、重量**が変わらず、**同等の原価**で

プラスチック使用量を25%以上削減

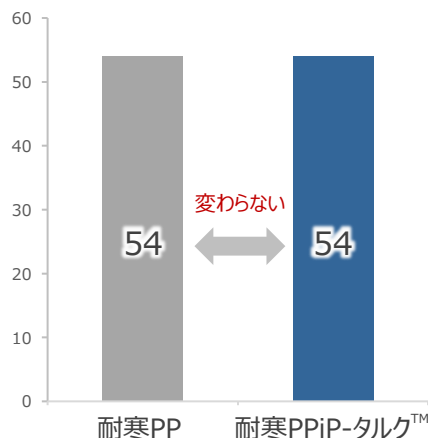


FTデリブレ角

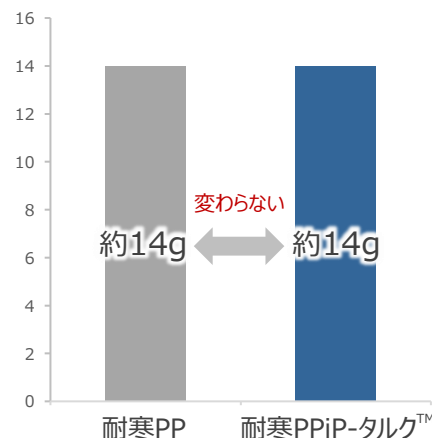
耐寒衝撃性(J)



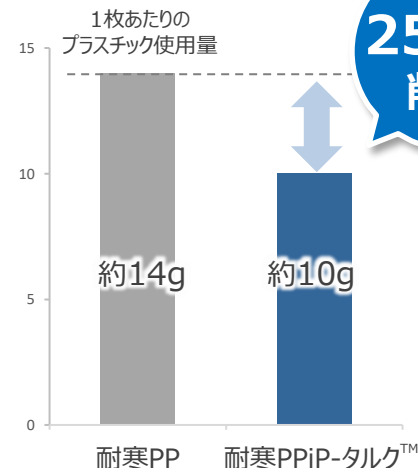
天地圧縮強度(N)



重量(g)



プラスチック使用量(g)



25%以上
削減

01. 価格改定/原料動向

02. **エフピコの競争優位性**

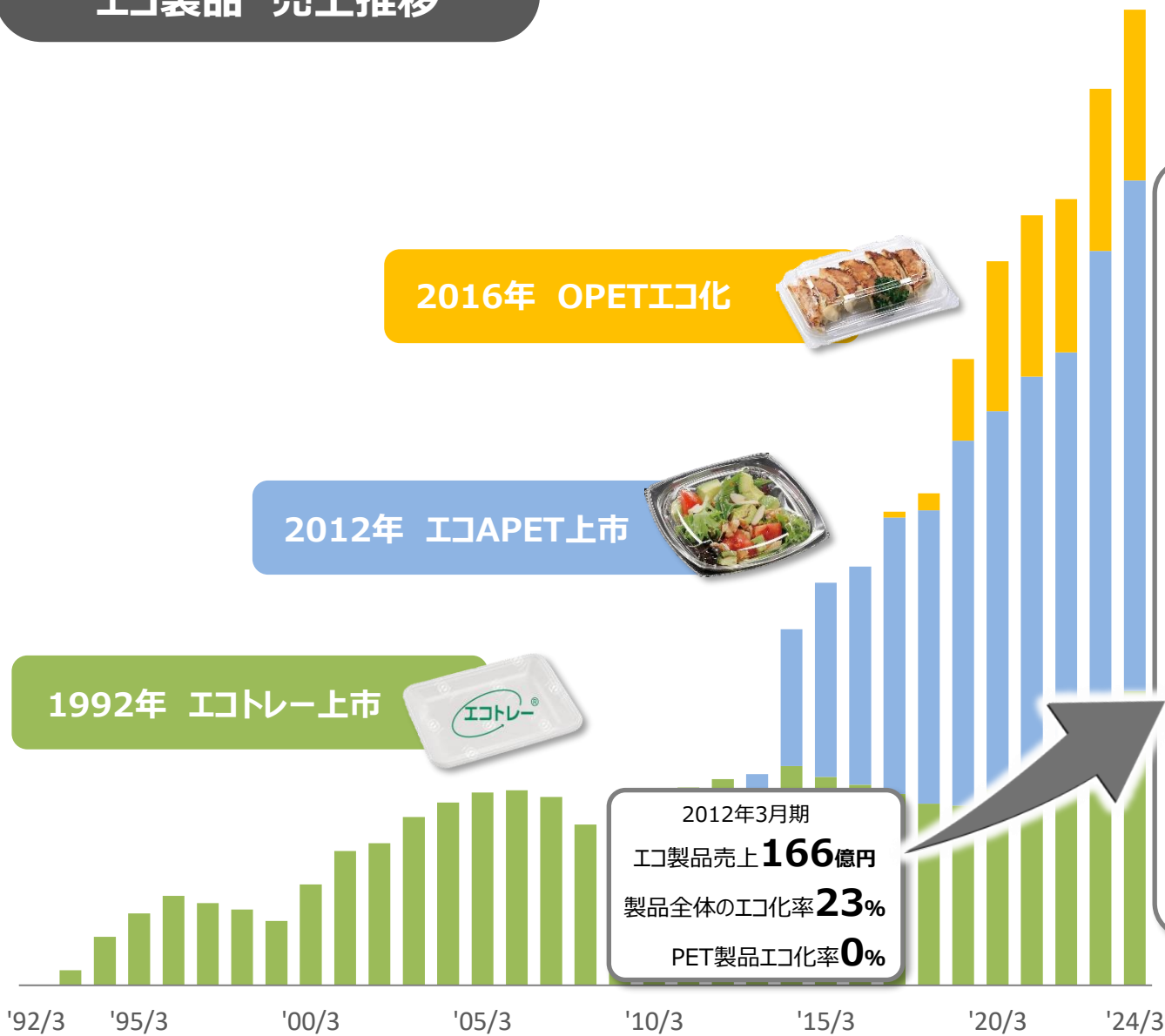
- ▶ 製品開発
- ▶ **エコ戦略**
- ▶ 安定供給

03. 成長戦略

エコ製品の販売実績



エコ製品 売上推移



お店を発着点とした「ストアtoストア」



お店で使用・販売した食品トレー・ペットボトル は
そのお店で資源として回収 し、食品トレー・透明容器に再生して、
また そのお店で積極的に使用する



「ストアtoストア」協働宣言の広がり



80社 2,295店舗

2022年 11月 中国シジシー様 (15社、249店舗)

2023年 10月 エブリイ様 (45店舗)

11月 九州シジシー様 (23社、647店舗)

2024年 3月 東北シジシー様 (11社、327店舗)

6月 関西シジシー様 (23社、333店舗)

7月 リテールパートナーズ様 (3社、274店舗)

ヤオコー様 (189店舗)

8月 オークワ様 (152店舗)

9月 アオキスーパー様 (51店舗)

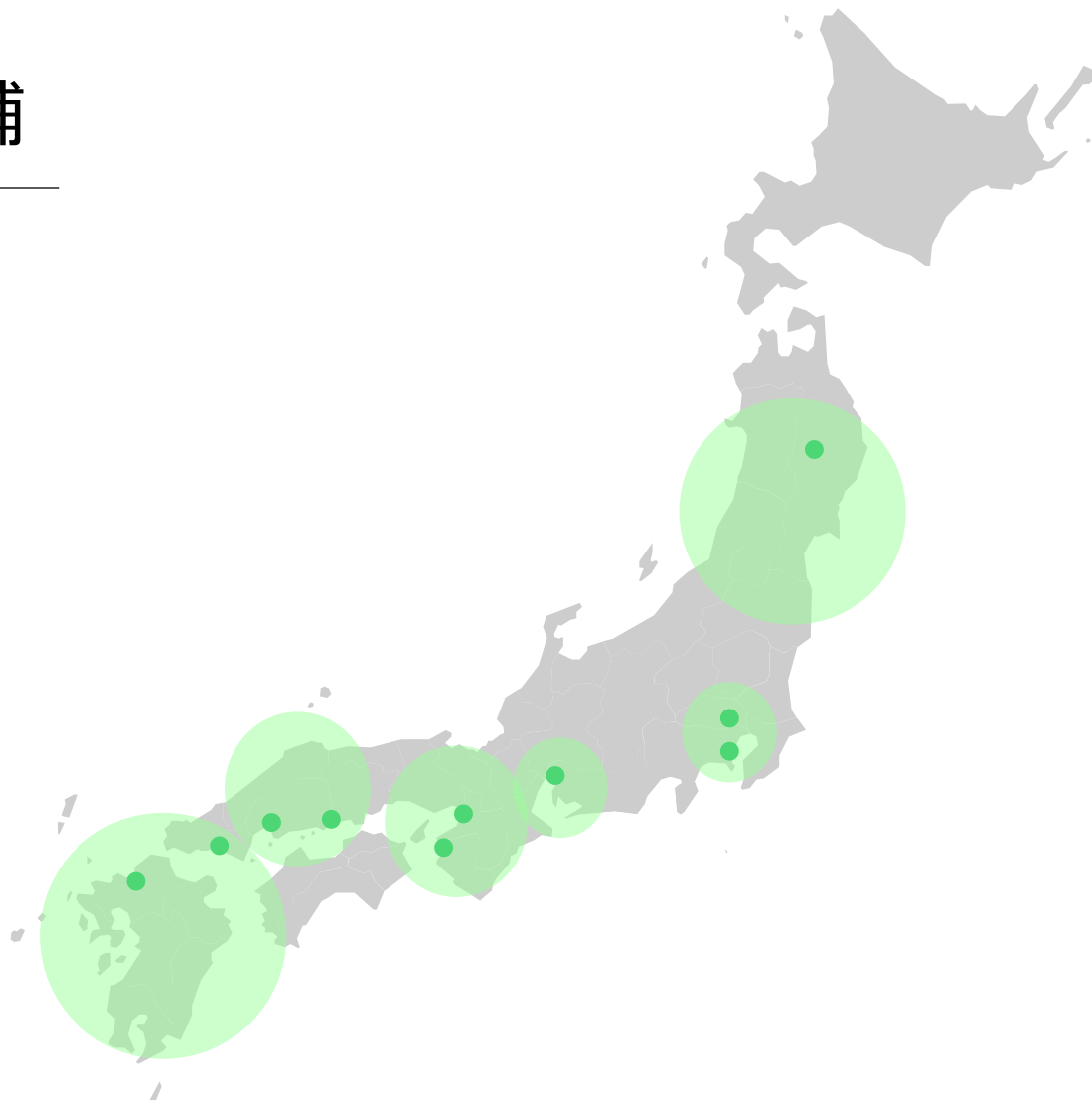
小田急商事様 (28店舗)



中国シジシー共同記者会見



リテールパートナーズ共同記者会見



さとう様、イズミ様、ウオロク様、相鉄ローゼン様他との協働宣言に向けて調整中

ユーザーとの協働によるエコ製品の拡大



中国シジシー

2022年11月 協働宣言

【CO₂削減量】

2021年実績	902トン
---------	-------



2023年目標	1,000トン
2023年実績	1,157トン

(2021年度比 128%)



CO₂削減量の増加 = エコ製品の拡大



エコ製品によるCO2排出量の削減

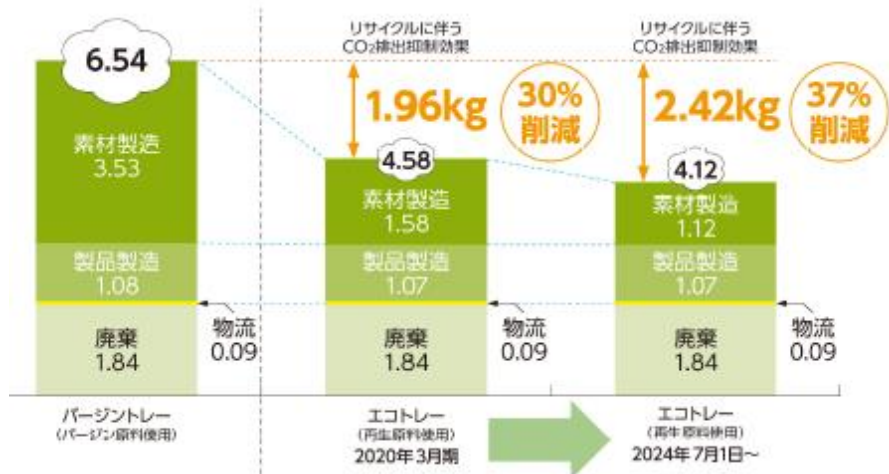


エコトレー



CO2排出量削減効果
(2024年7月1日出荷分～)

30% → 37%

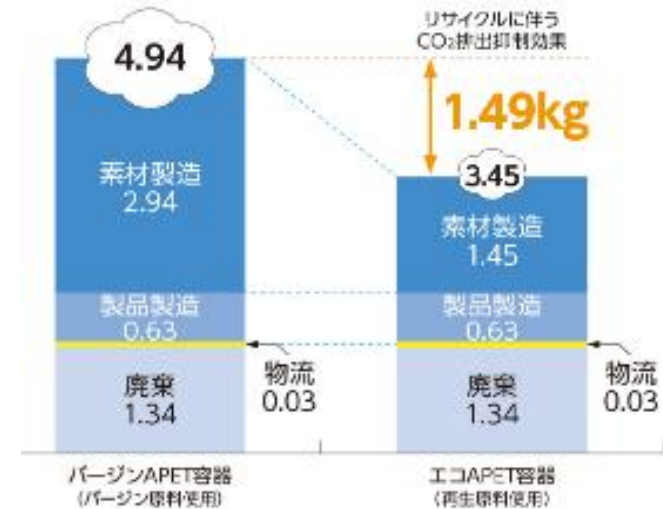


エコAPET・OPET容器



CO2排出量削減効果

30%



エコ製品によるCO₂削減への貢献



エコ製品の製造で
削減できるCO₂排出量

20.2万トン

2024年3月期
オフセット達成



グループCO₂排出量

18.7万トン

エコPET
4.5万トン

エコAPET
10.4万トン

エコトレー
5.3万トン

オフィス部門 0.3万トン
物流部門 0.7万トン

製造部門
17.7万トン

達成の要因

太陽光発電による
再生可能エネルギーを導入

エコPSP製品のCO₂削減量

34.2%削減

エコPET原料使用量の増加

エコPET製品のCO₂削減量

33.9%削減

エコ製品の販売が好調

2024年3月期 前年比（枚数）

104.5%

エコトレーの販売拡大に向けて

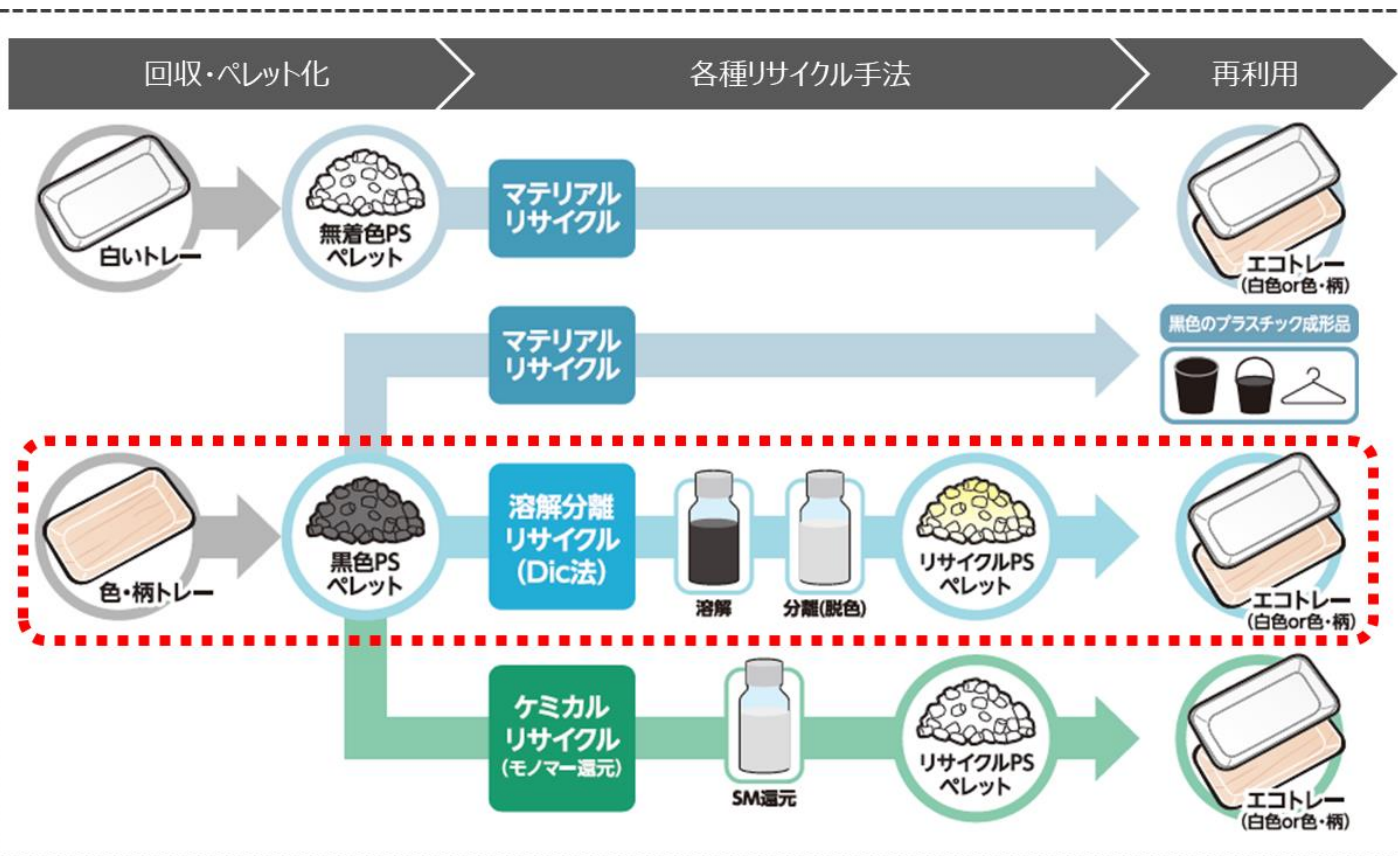


2024年11月

溶解分離リサイクル稼働開始



竣工式（11/5、DIC四日市工場）



溶解分離リサイクル設備の建屋

エコ化率伸長に向けて



PSP ▶ 溶解分離リサイクルの技術

カラートレーの
リサイクルが可能

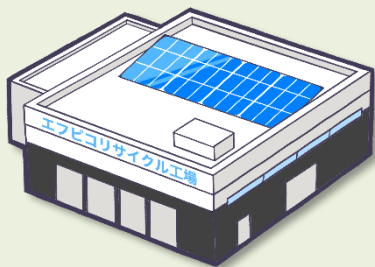


エコトレ販売ケース数

約**30%**増加

PET ▶ 再生原料の生産能力増強

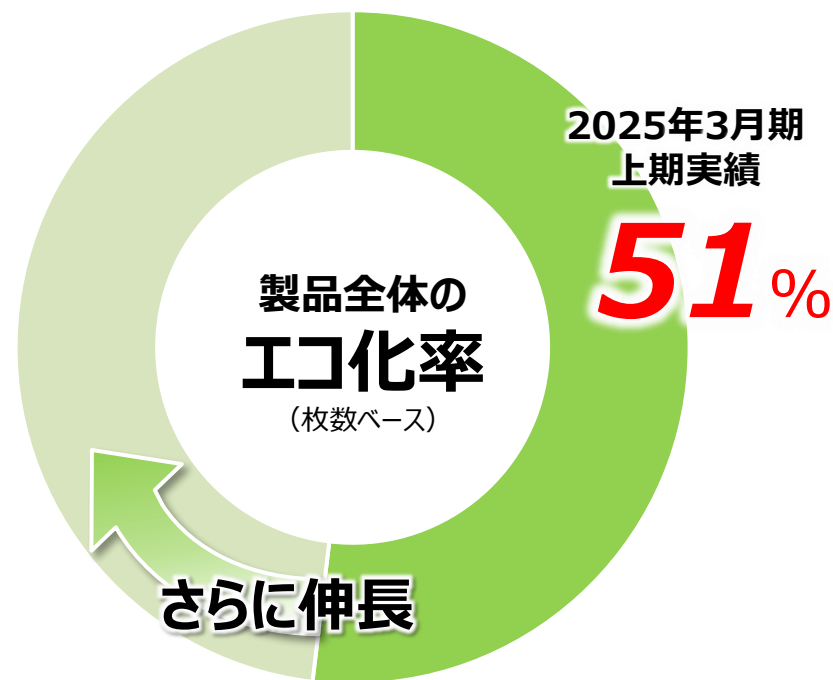
押出機増設



エコ原料生産能力

6.5万トン ▶ 7.5万トン

(2026年3月期見込み)



エコ化率伸長による効果

シェア拡大・収益性の改善

01. 価格改定/原料動向

02. **エフピコの競争優位性**

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ **安定供給**

03. 成長戦略

全国をカバーする物流ネットワーク

半径100kmで主要都市を含む
全人口の85%をカバーする
物流ネットワーク



関西工場・関西ハブセンター

稼働時期：2023年1月
投資額：266億70百万円
延床面積：79,883.65㎡



物流の2024年問題

2024年4月1日

「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(改善基準告示) が適用

トラックドライバーの長時間・過重労働が課題となり、労働条件の向上を図る



長距離になるほど車両の確保が困難

2024年問題への対応

拘束時間 **13時間以内**

2023年1月 関西ハブセンター稼働

	2022年 11月	2024年 9月
福山ハブセンター	34台	0台
関西ハブセンター	—	0台
合計	34台	0台

長距離運行の減少、
運行ルートの見直しにより

全国で13時間超がゼロ

荷待ち、積込み時間等 **2時間以内**

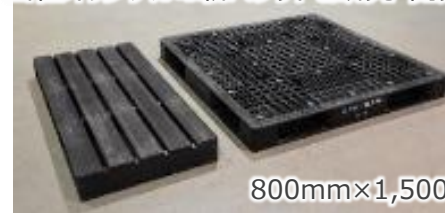
ソーター・輸送専用パレットの活用、入出荷の場所を集約

	2023年 9月	2024年 9月
1日の稼働台数	680台	700台
内、2時間超の台数	230台	24台

ソーター・輸送専用パレットの活用、
手作業でなくフォークリフトで積み荷をすることで

2時間超が減少

当社オリジナルの新パレットを研究・開発



長距離・追加運行のコスト増加



通常運賃



追加運賃

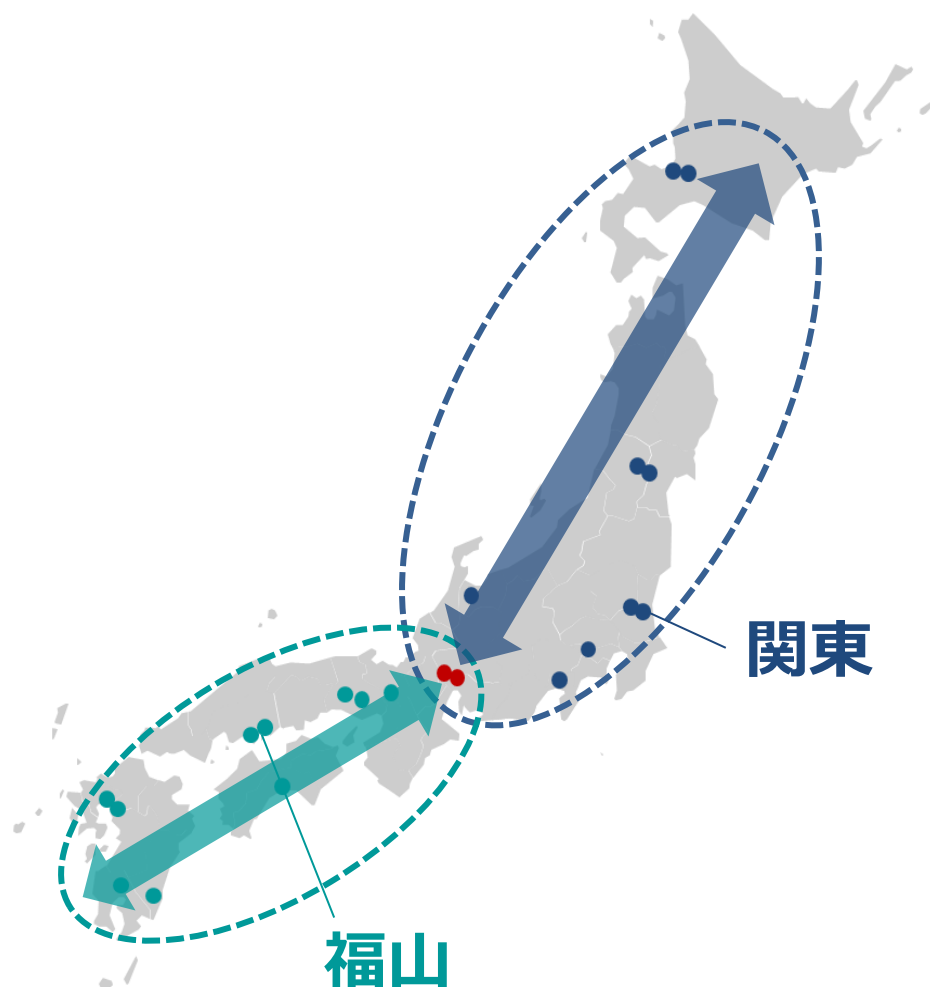
車両コストの前年比

	販売配送		横持輸送	
	車両台数	オーバーコスト	車両台数	オーバーコスト
年末 (2023年12月)	102.5%	103.0%	112.1%	339.3%
GW (2024年5月)	100.1%	110.5%	105.4%	381.6%
お盆 (2024年8月)	103.5%	105.5%	103.0%	694.9%

関東・福山間の製品移動の最少化

サプライチェーン・マネジメントシステム

SCM × 全国をカバーする拠点網



取り組み①

需要に応じた現地生産をさらに推進

取り組み②

東西でエリアを分割して横持の最少化

関東・福山間の長距離輸送 

2024年4月～9月 **48%削減**

01. 価格改定/原料動向

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ 安定供給

03. 成長戦略

中長期目標

- 2030/3期までに**売上高 3,000億円、経常利益 300億円**
ROEは**11%への改善を目指す**
- 株主還元
配当性向40%、中長期的な利益成長に応じて増配を目指す
自社株買いはキャッシュポジションを勘案し実施を検討
- 先行投資による回収を進めて売上高の成長、利益率の向上を図る

(単位：億円)	2024/3期 実績	▶	2025/3期 計画	▶▶▶	2030/3期 目標
売上高	2,221		2,360		3,000
経常利益	168		180		300
経常利益率	7.6%		7.6%		10.0%
純利益	117		121		210
ROE	8.2%		8.4%※		11.0%
配当 (1株当たり)	57円		57円 中長期的な利益成長に応じて増配を目指す		
自己株式の取得	30		機動的な自己株式取得を検討		

※株主資本の額は期初の数字を使用

成長戦略

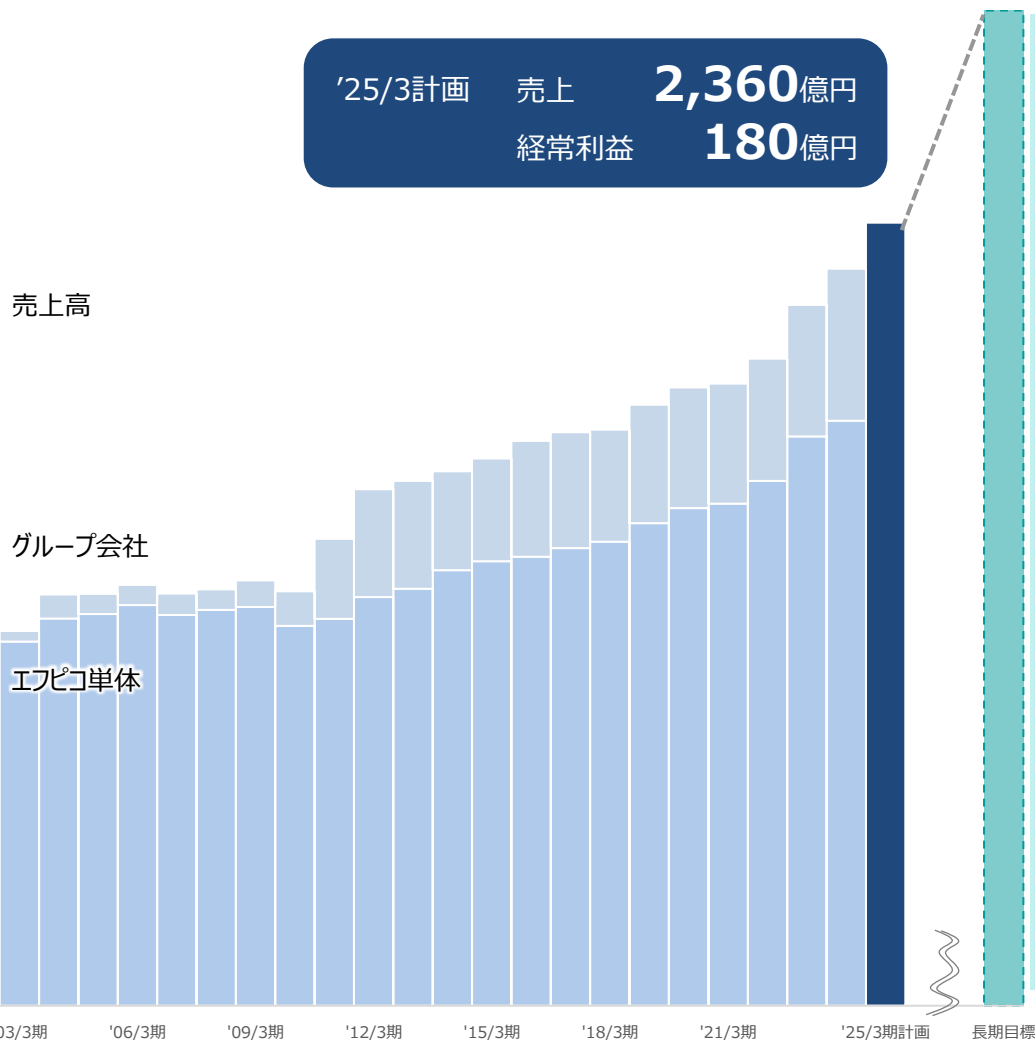
'25/3計画 売上 **2,360**億円
経常利益 **180**億円

長期目標 売上 **3,000**億円
経常利益 **300**億円

売上高

グループ会社

エフピコ単体



製品

オリジナル製品の強化

既存事業で年平均3%成長 1,700億円→2,000億円

- エコ製品、プラスチック使用量削減容器の伸長
- 冷凍、病院・介護給食等の新マーケット獲得



海外事業 新素材

新規事業 200億円

- 海外事業
新たなM&Aの検討を含めて海外事業を拡大
- 新素材による新たな事業領域への進出



商品

グループインフラの活用

- 既存事業で年平均5%成長 500億円→650億円
グループインフラの活用による問屋連携
- M&Aによるマーケットの獲得 200億円



オリジナル製品の強化

2025/3期上期 製品売上構成比（枚数ベース）



M&A① グループインフラの活用



株式会社アベックス : 九州地区における 売上高**100**億円の食品包装資材問屋

問屋標準基幹システム

全国のディーラー7社導入済み
アベックス導入中

製商品の ピッキングインフラ

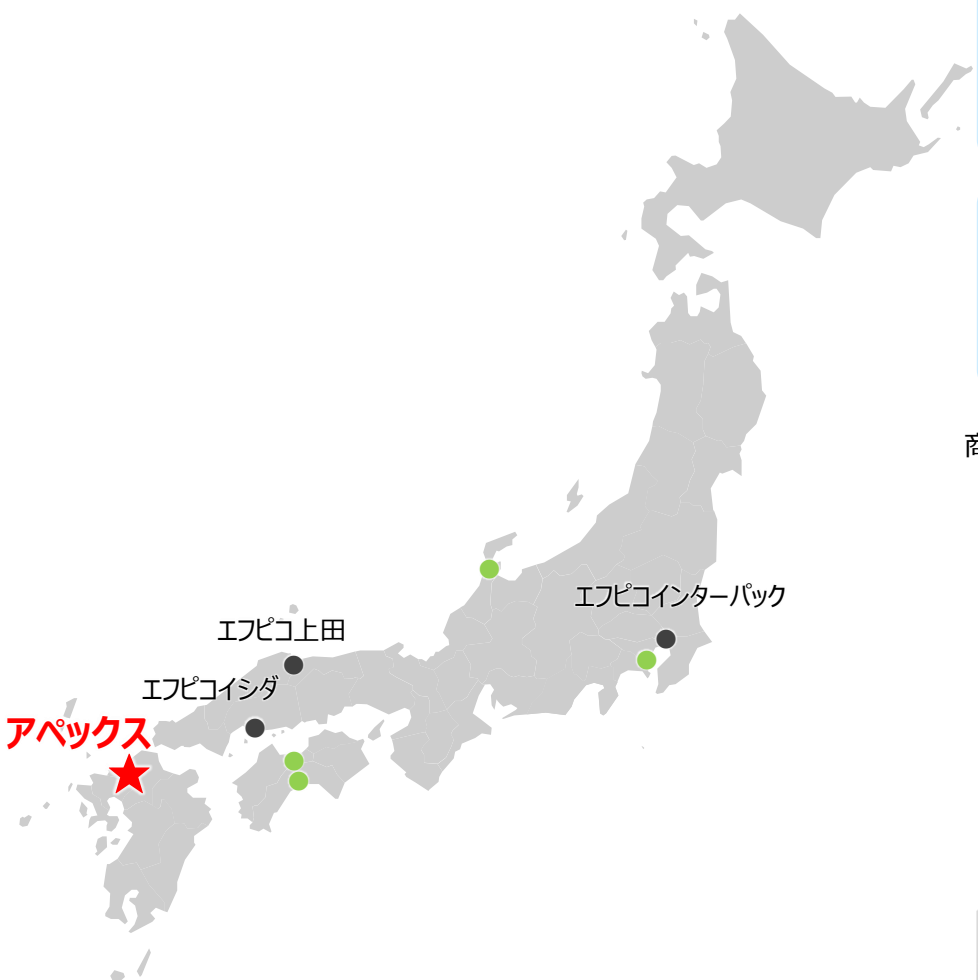
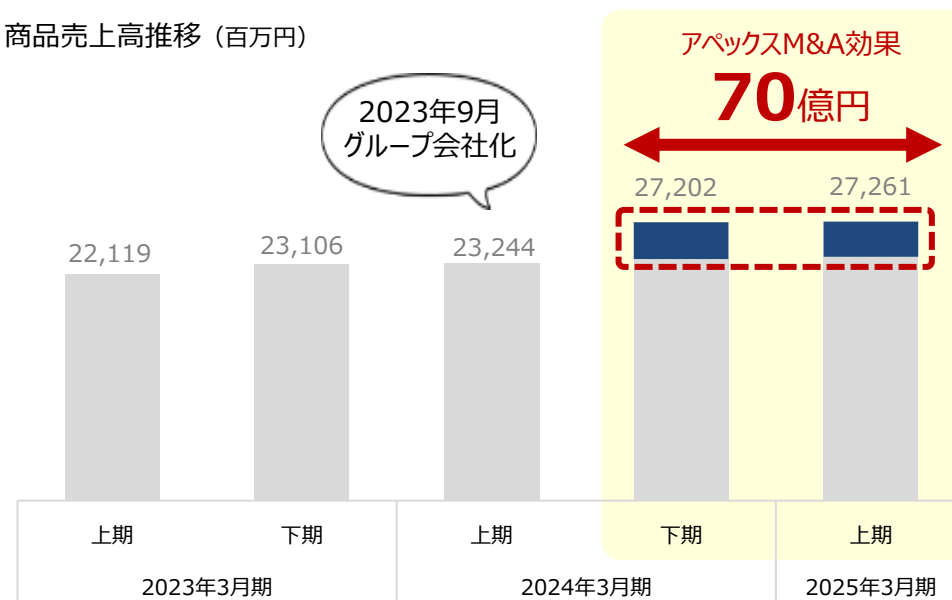
包装資材のECサイト 「バックマーケット」

マーチャンダイジング

エフピコ商事のMD

アイテム選定、在庫集約
PB商品の充実

商品売上高推移（百万円）



M&A② 海外 LSSPI社

Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.

所在地：マレーシア

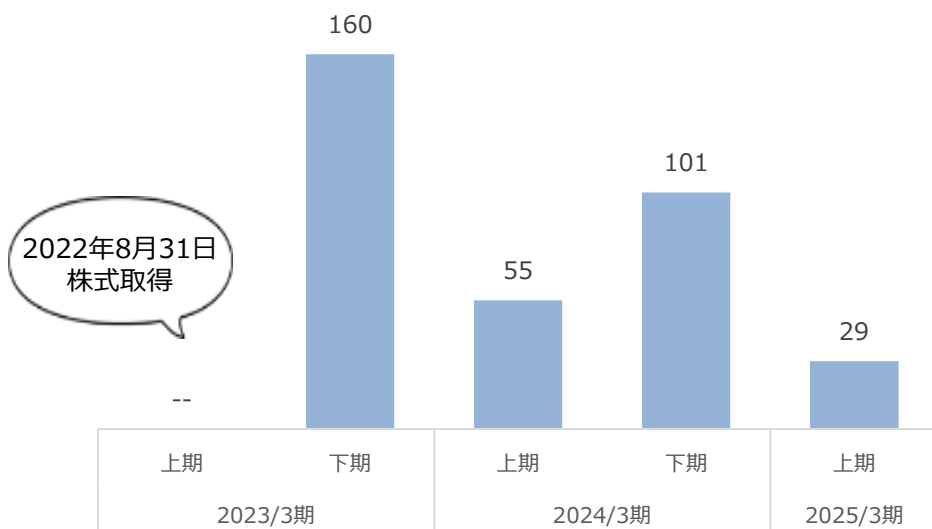
取得総額：約167億円（当社取得額：約67億円）

持分比率：三井物産 60%、エフピコ 40%

売上高：80億円（2024/3期）※売上構成 国内 6：海外 4



PL利益 持分40%（百万円）



ステップ1

3か年計画「2倍の生産性へ」

- ▶ 成形機、押出機等の新設備の導入
- ▶ エフピコのノウハウによって、成形スピードアップ
- ▶ 自動化、省人化の推進

ステップ2

マレーシア・シンガポールで 圧倒的シェア獲得

ステップ3

さらに拡大が期待される 東南アジア市場の礎へ

世界初の新シートを開発①

エピコ独自の 新OPP (2軸延伸ポリプロピレンシート) の開発に成功

一般的な OPP

- 厚さ：30～50ミクロン
- 用途：食品用軟包装資材 等



単層
シート

新OPP (超高剛性2軸延伸ポリプロピレンシート)

- 厚さ：150～300ミクロン
- 用途：（食品容器）既存の素材から切替
（産業分野）自動車部品、耐薬品性家電部品等を想定



新OPP透明容器サンプル

エピコ独自 新OPP

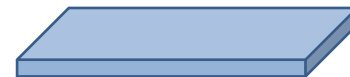
新OPP積層シート

- 厚さ：1～3ミリ
- 用途：（産業分野）自動車部品、住設、太陽電池、物流資材等を想定

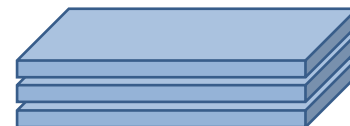
積層
シート

※イメージ

単層



積層



世界初の新シートを開発②

食品容器における新OPPの優位性

透明容器の素材比較

		新OPP (2軸延伸PP)	OPS (2軸延伸PS)	APET (無延伸PET)	OPET (2軸延伸PET)	透明PP (無延伸PP)
透明性		○	○	○	○	△
耐熱性		110℃	80℃	60℃	80℃	110℃
耐寒性	-18℃	○	△	×	○	×
	-30℃	○	△	×	○	×
同強度時の 容器重量	○軽い ×重い	○	△	×	△	×
耐油性		○	×	○	○	○

世界初の新シートを開発③

新OPP積層シート 10の特徴

1. 賦形性

OPPシートとして高い成形性

2. 透明性

一般透明PPよりも高い透明性

4. 高剛性

変形に対する強度

6. 耐寒性

-40℃に対応

8. リサイクル性

PPとしてマテリアルリサイクルが可能

3. 加飾性

印刷によるデザインの付加が可能

5. 高靱性

割れにくく粘り強い

7. 耐薬品性

薬品に対して高い耐性

9. 低線膨張

一般PPより熱膨張が少ない

10. 低比重

プラスチック素材として最軽量

▶ CO₂削減

企業価値拡大に向けて

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」

「どこよりも競争力のある価格で」

「必要なときに確実にお届けする」



添付資料

用語解説

★:オリジナル製品

	PS	ポリスチレン
	PET	ポリエチレンテレフタレート
	PP	ポリプロピレン
★	エコトレー	スーパーで店頭回収された発泡PS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器（1992年販売開始）
★	エコAPET容器	スーパーで店頭回収されたPET 透明容器・PETボトル及び工場内端材を原料とする リサイクルPET透明容器（2012年販売開始） 耐熱温度+60℃
★	エコOPET容器	エコAPET容器と同じ原料を使用する二軸延伸PET（OPET）シートから成形したリサイクルOPET透明容器（2016年販売開始） 耐油性に優れ、透明度も高くOPS容器と同等の耐熱性を実現 耐熱温度+80℃
★	新低発泡PSP容器	非発泡容器と同等の強度及びシャープな形状を維持しながら、プラスチック使用量を削減した発泡PS容器 非発泡容器と比較して50%～60%軽量化
★	マルチFP(MFP)容器	-40℃～+110℃の耐寒・耐熱性、耐油性及び断熱性に優れた発泡PS容器（2010年販売開始）
★	マルチソリッド(MSD)容器	マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS容器（2012年販売開始） 耐熱温度+110℃
★	透明PP容器	標準グレードのPP原料から、OPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度+110℃（2012年販売開始）
★	耐寒PPiP-タルク容器	二種類の無機物を配合することで、従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減した耐寒PPファイラー容器 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度、重量を保持
	OPS容器	従来からの二軸延伸PSシートから成形した透明容器 耐熱温度+80℃
	HIPS容器	剛性に優れ成形性が良い非発泡PS容器 耐熱温度+90℃
	溶解分離リサイクル	マテリアルリサイクルにより生産された黒色PSペレットを溶解、脱色したうえで、食品容器向けの再生PS原料を生産する手法 DIC(株)が開発した世界初の技術（2024年11月稼働予定）
	PC（プロセスセンター）	食品の生産及び配送を一括して行うセンター
	配送センター	製商品の入荷から受注・配車・出荷・トレー回収までを行う物流拠点
	ハブセンター	複数の棟をソーターシステムで連結し、出荷の自動仕分け、集約を行う配送センター
	DC（ディストリビューションセンター）	包材問屋向けにケース出荷を行う物流部門
	PC（ピッキングセンター）	スーパーマーケット向けの小ロットピッキング出荷を行う物流部門
	選別センター	店頭回収した発泡PS容器を白と色に、透明容器をPS・PET・PP等の素材に選別するリサイクル拠点

業績推移①

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ適用

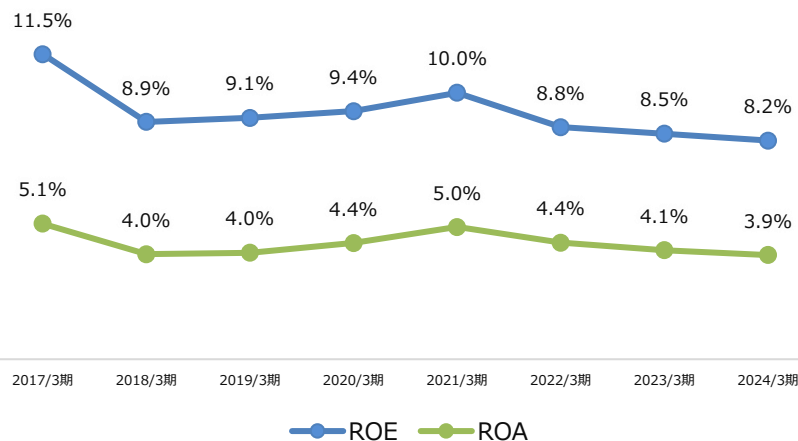
(百万円)

	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
売上高	172,858	173,580	181,171	186,349	187,509	195,700	211,285	222,100
営業利益	15,176	12,884	13,949	15,507	18,763	15,884	16,703	16,429
経常利益	15,742	13,548	14,861	16,274	19,381	16,703	17,328	16,780
純利益	10,953	9,178	9,901	10,777	12,211	11,206	11,529	11,724
償却前経常利益	26,926	25,255	28,031	29,807	32,991	30,340	31,509	31,833
売上高経常利益率	9.1%	7.8%	8.2%	8.7%	10.3%	8.5%	8.2%	7.6%
ROE	11.5%	8.9%	9.1%	9.4%	10.0%	8.8%	8.5%	8.2%
ROA（総資産純利益率）	5.1%	4.0%	4.0%	4.4%	5.0%	4.4%	4.1%	3.9%
EPS（円/株）	132.43	111.01	119.75	130.36	147.80	136.96	140.87	143.50
配当（円/株）	40.00	40.50	40.50	40.50	44.50	47.00	47.00	57.00
配当性向	30.2%	36.5%	33.8%	31.1%	30.1%	34.3%	33.4%	39.7%
自己株式取得	—	—	—	—	3,999	—	—	2,999
総資産	219,481	244,147	249,332	242,497	247,234	262,695	298,623	298,580
純資産	99,721	106,219	112,198	119,301	124,980	132,455	140,171	145,844
現預金	18,144	15,659	19,151	20,288	17,884	19,745	22,255	23,707
有利子負債	80,551	91,991	91,402	80,341	73,459	80,174	102,008	92,785
自己資本比率	45.3%	43.4%	44.8%	49.0%	50.3%	50.2%	46.7%	48.6%
設備投資	21,060	29,891	14,038	12,214	19,412	23,361	30,853	9,591
減価償却費	11,183	11,706	13,170	13,532	13,609	13,636	14,180	15,052
研究開発費	1,223	1,197	1,159	1,229	1,195	1,154	1,295	1,483
オリジナル製品比率	52.3%	55.7%	59.2%	60.5%	62.0%	61.9%	63.6%	66.1%
在庫回転月数（ヶ月）	1.47	1.53	1.54	1.48	1.44	1.44	1.56	1.57
リサイクル回収重量（t）	36,631	55,262	75,730	82,700	85,000	83,330	91,400	90,500
リサイクル回収拠点数（カ所）	9,200	9,150	9,260	9,390	9,800	10,000	10,500	10,680

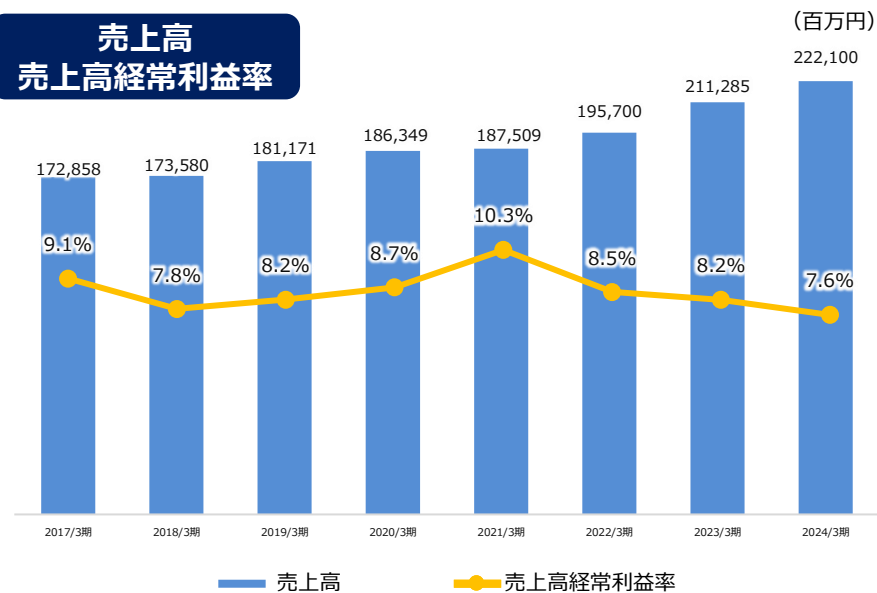
業績推移②

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ適用

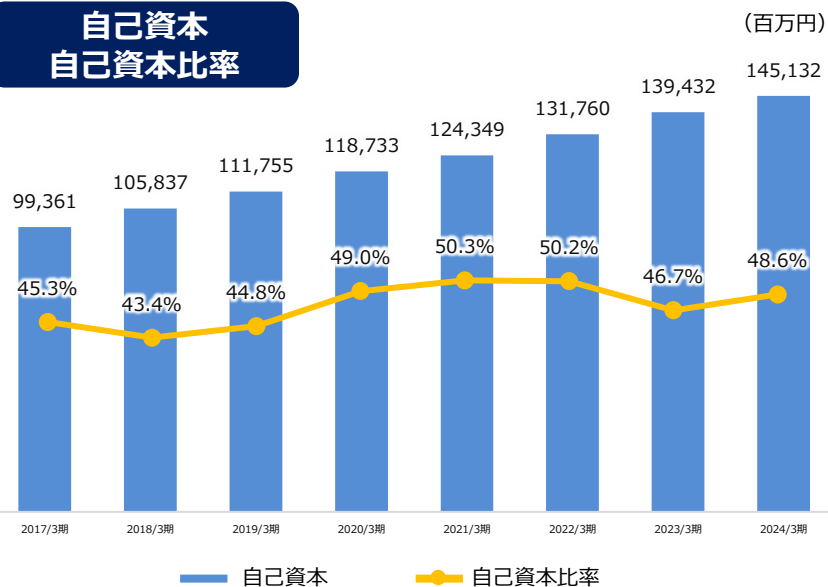
ROE ROA



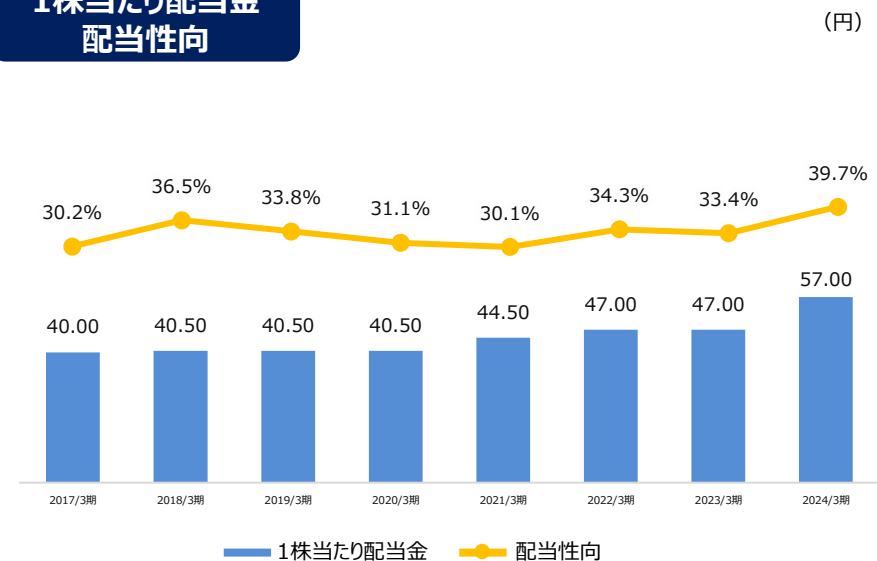
売上高 売上高経常利益率



自己資本 自己資本比率



1株当たり配当金 配当性向



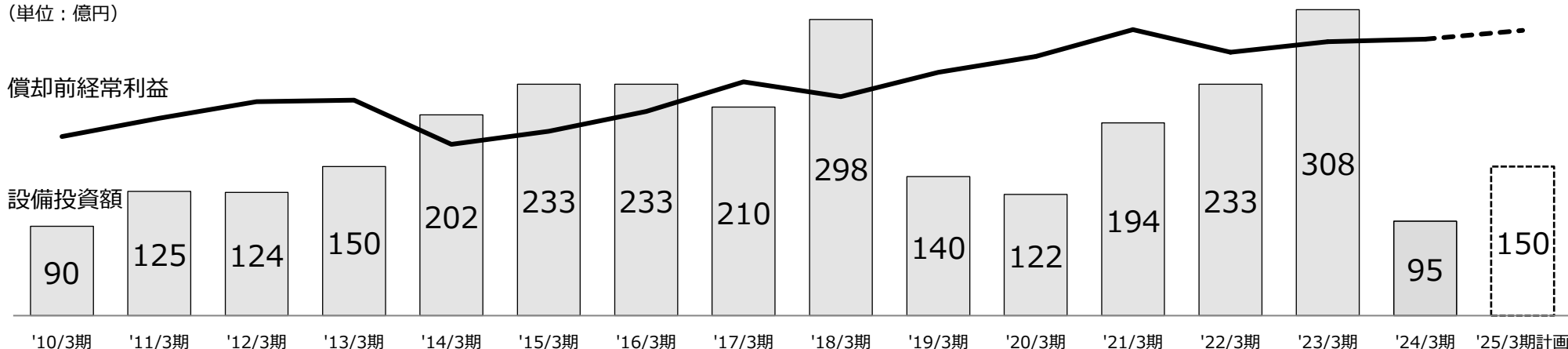
経常利益 増減要因 推移

単位：億円

	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3			'18/3			'19/3			'20/3			'21/3			'22/3			'23/3			'24/3			'25/3計画		
				上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期
前期 経常利益	151.2	100.5	101.1	66.3	74.0	140.3	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.0	109.1	173.2	72.3	95.4	167.8
原料価格																														
		原料値下り	+31.0	+20.0	+3.0	+23.0							+2.5	+5.2	+7.7	+11.0	+3.0	+14.0												
	-46.0	-7.0					-13.0	-13.0	-26.0	-14.8	-15.5	-30.3							-9.9	-36.1	-46.0	-24.4	+23.8	-0.6						
販売価格		ナフサ運動	-11.0	-12.5	-11.0	-23.5																								
	+15.0	+16.0					-	+4.5	+4.5	+13.6	+28.0	+41.6	+10.5	-	+10.5															
	-13.0	-13.0																												
販売活動	+8.0	+14.5																												
			+19.5	+10.5	+12.5	+23.0	+6.0	+3.2	+9.2	+4.5	+7.2	+11.7	+3.5	+5.0	+8.5	+7.2	+9.8	+17.0	+11.0	+6.0	+17.0	+4.0	+3.5	+7.5						
	+1.0	+4.0																				価格改定含む			+56.3	+4.0	+60.3	+11.2	+60.0	+71.2
生産	+1.0	+4.0	+12.0	+3.2	+1.1	+4.3	-3.2	-4.0	-7.2	-0.5	-	-0.5	+1.0	+1.5	+2.5	-1.5	+3.5	+2.0	+3.5	-1.5	+2.0	+1.5	-1.0	+0.5	-19.5	+7.4	-12.1	+3.0	-5.0	-2.0
物流	+1.0	-1.0	+1.5	-3.0	-2.7	-5.7	+0.5	+1.0	+1.5	-1.5	-3.0	-4.5	-4.0	-3.5	-7.5	-0.5	+1.5	+1.0	+2.5	+2.5	+5.0	-	-	-	-4.0	-3.0	-7.0	-6.0	-4.0	-10.0
グループ会社	-1.0	-1.5	+5.5	+2.0	+3.0	+5.0	-	+1.5	+1.5	+0.5	+1.5	+2.0	+2.0	+0.1	+2.1	-0.7	+6.5	+5.8	+4.0	+2.0	+6.0	+2.0	+10.9	+12.9	-2.0	-3.7	-5.7	+3.0	+1.0	+4.0
	補助金	+6.5	-1.7	-3.7	+0.8	-2.9																								
経費増減	-17.0	-22.0	-17.6	-3.7	-2.4	-6.1	-3.1	-2.3	-5.4	-3.3	-3.6	-6.9	-5.9	-3.8	-9.7	-4.3	-4.4	-8.7	-7.6	-3.2	-10.8	-8.1	-5.9	-14.0	-5.1	-4.4	-9.5	-8.3	-2.7	-11.0
増減 計	-51.0	+0.5	+39.2	+12.8	+4.3	+17.1	-12.8	-9.1	-21.9	-1.5	+14.6	+13.1	+9.6	+4.5	+14.1	+11.2	+19.9	+31.1	+3.5	-30.3	-26.8	-25.0	+31.3	+6.3	+8.2	-13.7	-5.4	-7.1	+19.3	+12.2
当期 経常利益	100.5	101.1	140.3	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.1	109.2	173.3	72.3	95.4	167.8	65.2	114.8	180.0

戦略投資

(単位：億円)



年間約**200**億円の投資水準

世界初の素材開発

2010年 マルチFP製品 上市
2012年 マルチソリッド製品 上市
エコAPET 製品 上市
OPET 製品 上市
新透明PP 製品 上市
2014年 PPI-タルク 製品 上市
2022年 耐寒PPI-タルク 製品 上市

生産・リサイクル強化

2012年 関東八千代工場
2016年 中部エコペット工場
2017年 関東エコペット工場
2018年 エピコアルライト工場
エピコグラビア工場
2022年 中部第一工場
2023年 関西工場
2024年 関西選別センター

物流網強化

2012年 中部ピッキング
2014年 福山クロスドックセンター
八王子配送センター
2020年 九州配送センター拡充
福山ハブセンター拡充
2021年 中部クロスドックセンター拡充
2023年 関西ハブセンター

人への投資

2014年 総合研究所・人材開発研修センター
2018年 広島営業所
2019年 エピコインターパック本社
单身寮PicoHouse(総戸数:473戸)
〔 2017年 1号館(150戸)
2号館(102戸)
2020年 3号館(63戸)
4号館(18戸)
2022年 5号館(140戸) 〕

電子レンジ・冷凍市場拡大

ESG投資拡大

路線便値上がり

人手不足

財務戦略 計画 (2025/3期～2027/3期)

● 営業キャッシュフローおよび資金調達を原資とし、投資・株主還元を戦略的に配分

2025/3期～2027/3期 (3年間累計)



株主還元

● 配当方針

目途とする連結配当性向**40%**、継続的かつ安定的に実施

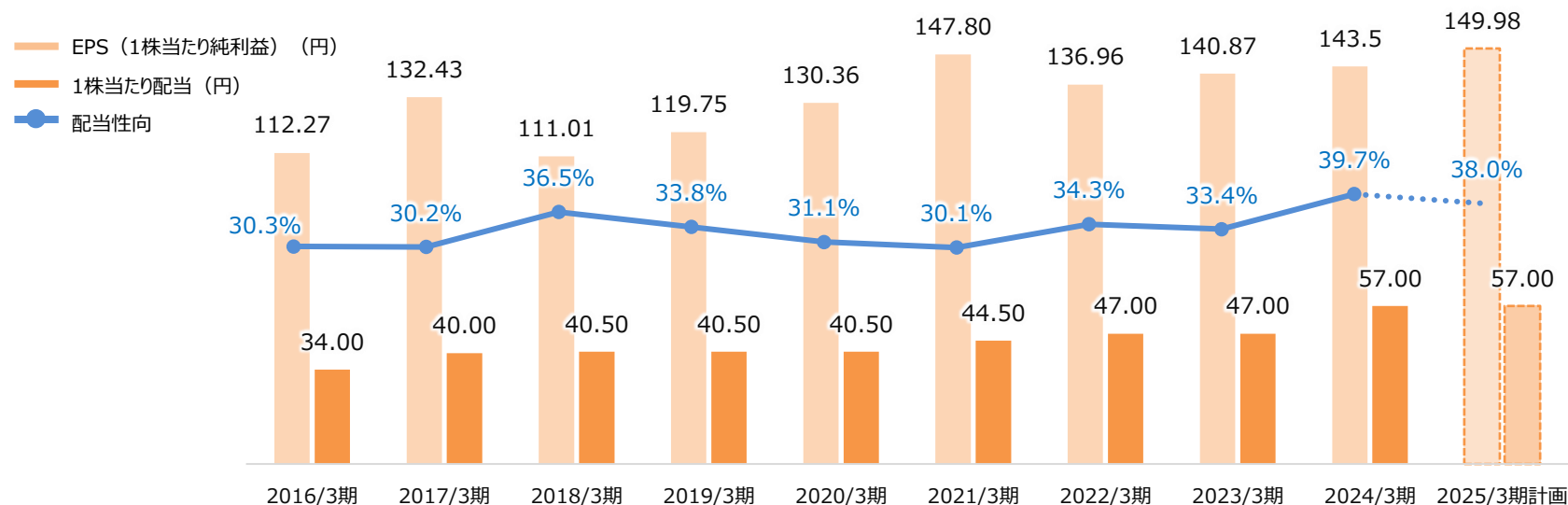
▶ 2025/3期の1株当たり配当**57円**

▶ 実績として累進的な配当を実施、1株当たり利益を高めることで増配を図る

● 自己株式の取得

財務の健全性を維持しつつ、戦略投資や株価水準等を勘案し、機動的・柔軟な還元を検討

▶ 株主還元の充実および資本効率の向上を図るため、30億円実施（2024年2月）



(単位：億円)	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
配当	28	33	33	33	33	37	38	38	46
自己株式の取得	－	－	－	－	－	40	－	－	30
合計	28	33	33	33	33	77	38	38	76
総還元性向	30.3%	30.2%	36.5%	33.8%	31.1%	62.7%	34.3%	33.4%	65.1%

株主との対話の推進について

● 機関投資家向け 各種説明会の実施（2022年度～2023年度）

開催時期	説明会名称	内容	主な登壇（スピーカー）
決算関連			
11月	第2四半期 決算説明会	業績予想および 企業価値向上に向けた取り組み	代表取締役会長 代表取締役社長 専務取締役（経理財務・IR担当）
5月	決算説明会		
その他イベント			
2022年12月	国内証券 スモールミーティング	業績動向および成長戦略	代表取締役会長
2023年 1月	国内証券 投資家工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長
2023年 2月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2023年 6月	国内証券 トップミーティング	業績動向および成長戦略、当社製品の体験	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2023年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフピコ方式リサイクルの認知向上	IR担当、部門長
2023年12月	国内投信 投資家工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学、成長戦略	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長
2024年 3月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）

● 個別対話概要（2022年度～2023年度）

延べ対話社数	投資家概要	対応者（案件により異なる）
約400社	中長期を中心とした幅広い投資スタイルの国内外機関投資家 多様な担当分野（アナリスト、ファンドマネージャー、ESG担当等）	代表取締役会長、代表取締役社長、独立社外取締役、 専務取締役（経理財務・IR担当）、常務取締役（総務人事 担当）、サステナビリティ推進室

● 個別工場見学（2022年度～2023年度）

延べ対応社数	対応拠点	対応者（案件により異なる）
約20社	関東、中部、関西、福山	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長

世界初の素材・シート

PP : ポリプロピレン

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 発泡が難しく、軽量化しにくい
- ★ コシ強度が低い
- ★ 耐寒性に劣る
- ★ 透明性が出難い

耐寒PPP-タルク

- ☆ 従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減
- ☆ 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度重量を保持

PS : ポリスチレン

PSP : 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 軽量化が可能
- ☆ 断熱性が高い
- ★ 耐熱性が低い : +80℃
- ★ 耐油性に劣る

新透明PP

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 透明性がOPSと同等

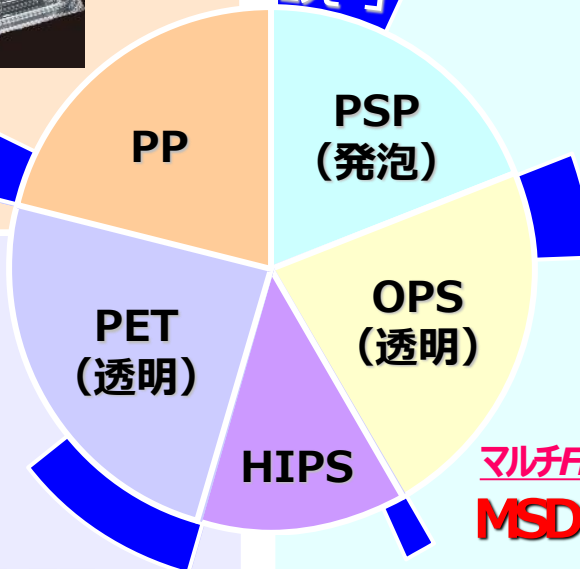
PET : ポリエチレンテレフタレート

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 耐熱性が低い : +60℃
- ★ 比重が大きい

OPET : 二軸延伸PET

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 耐熱性がOPSと同等 : +80℃
- ☆ 延伸により軽量化が可能
- ★ 成形が難しい

エフピー



MFP : マルチFP

: 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 断熱性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 幅広い温度帯をカバー
-40℃ ~ +110℃
- ☆ コシ強度がある
- ☆ 軽量化が可能



マルチFP端材の循環

MSD : マルチリッド

: 非発泡PS

OPS : 二軸延伸PS

- ☆ 透明性がある
- ☆ 耐熱性 : +80℃
- ★ 耐油性に劣る
- ★ 軽量化に限界



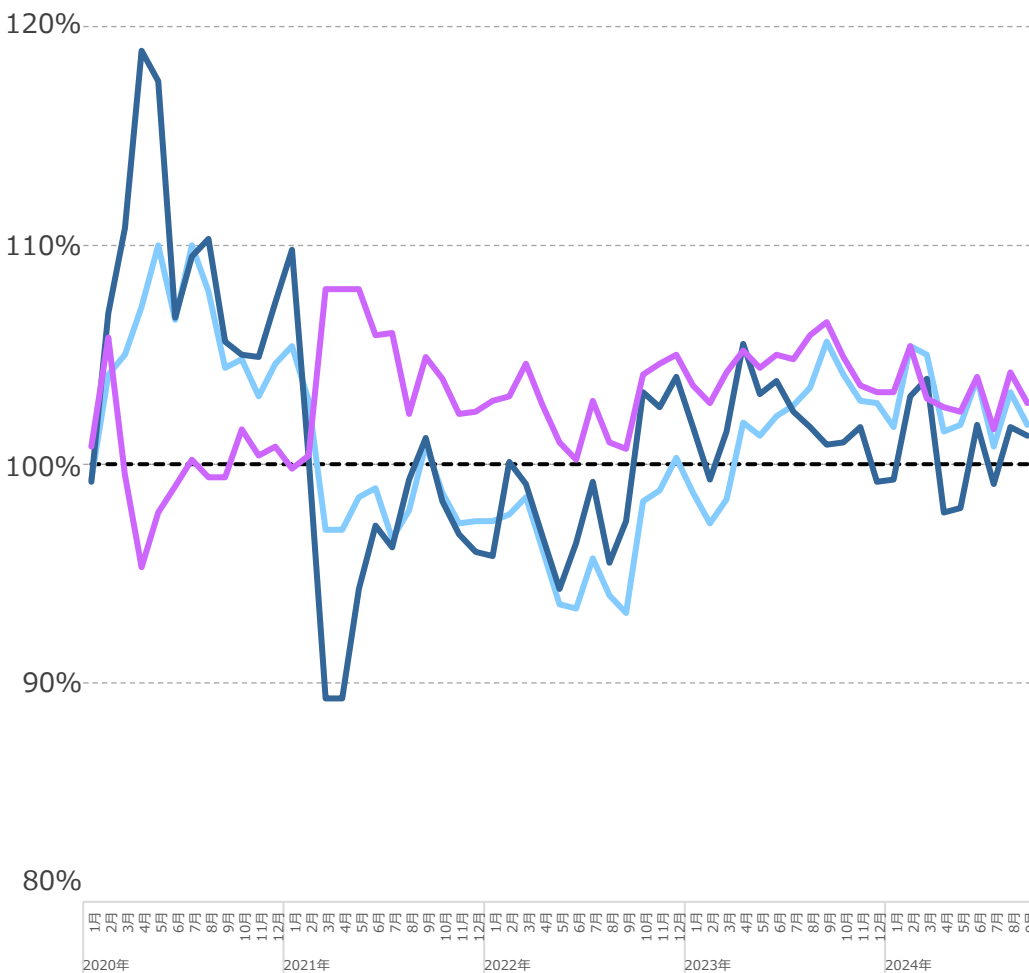
小売動向

出所：一般社団法人日本スーパーマーケット協会（既存店、売上前年比）

出所：一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（既存店、前年比）

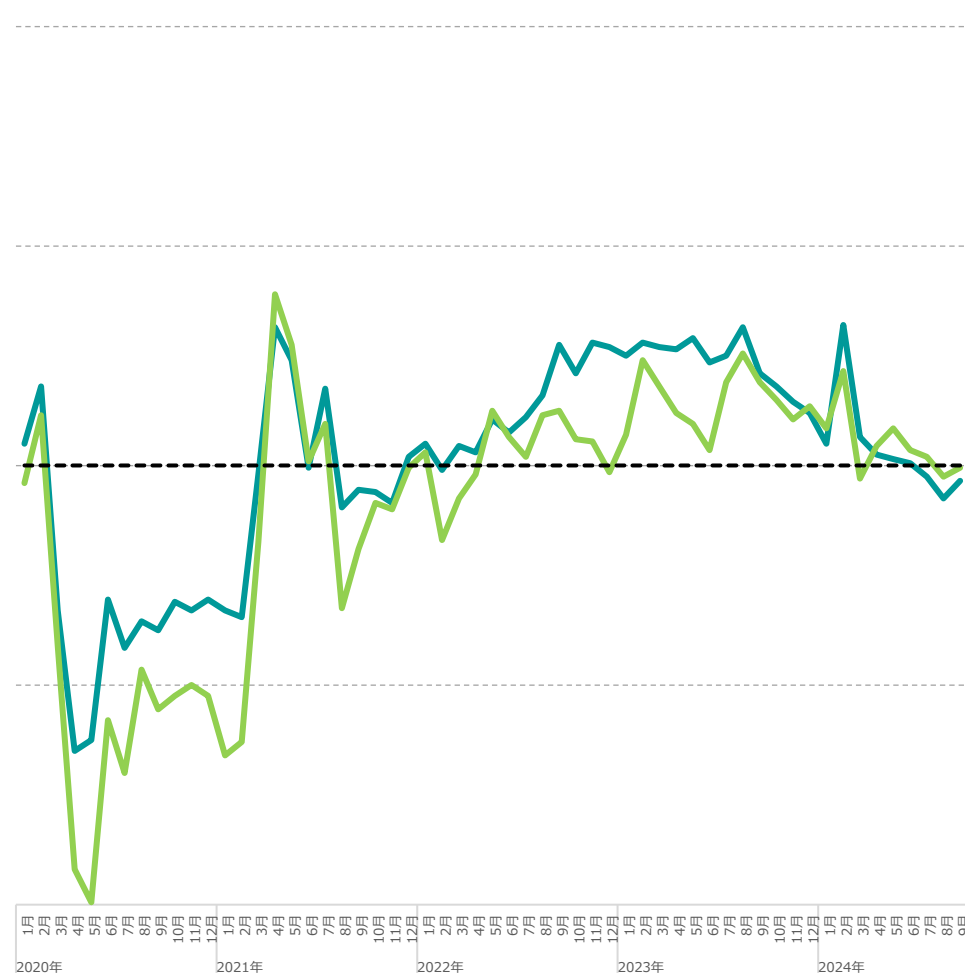
スーパーマーケット

水産  畜産  惣菜 



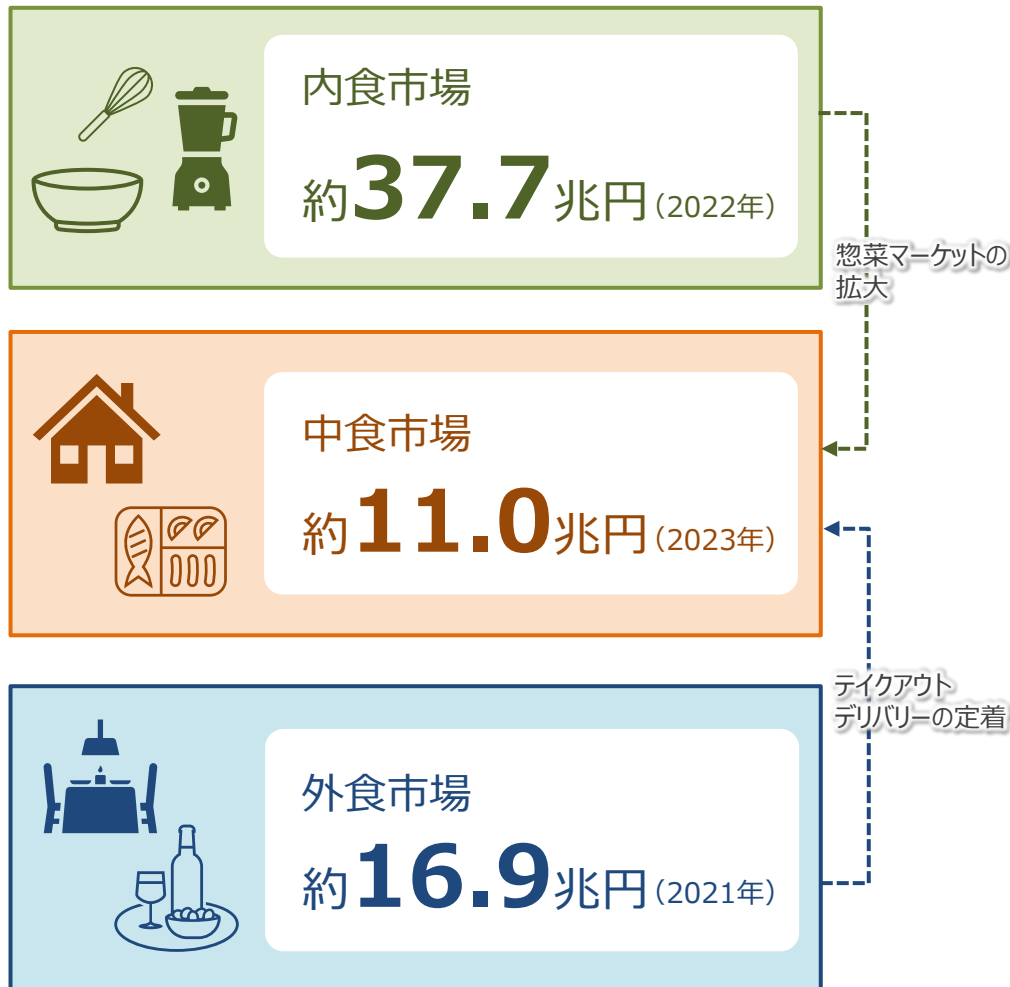
コンビニエンスストア

売上  客数 

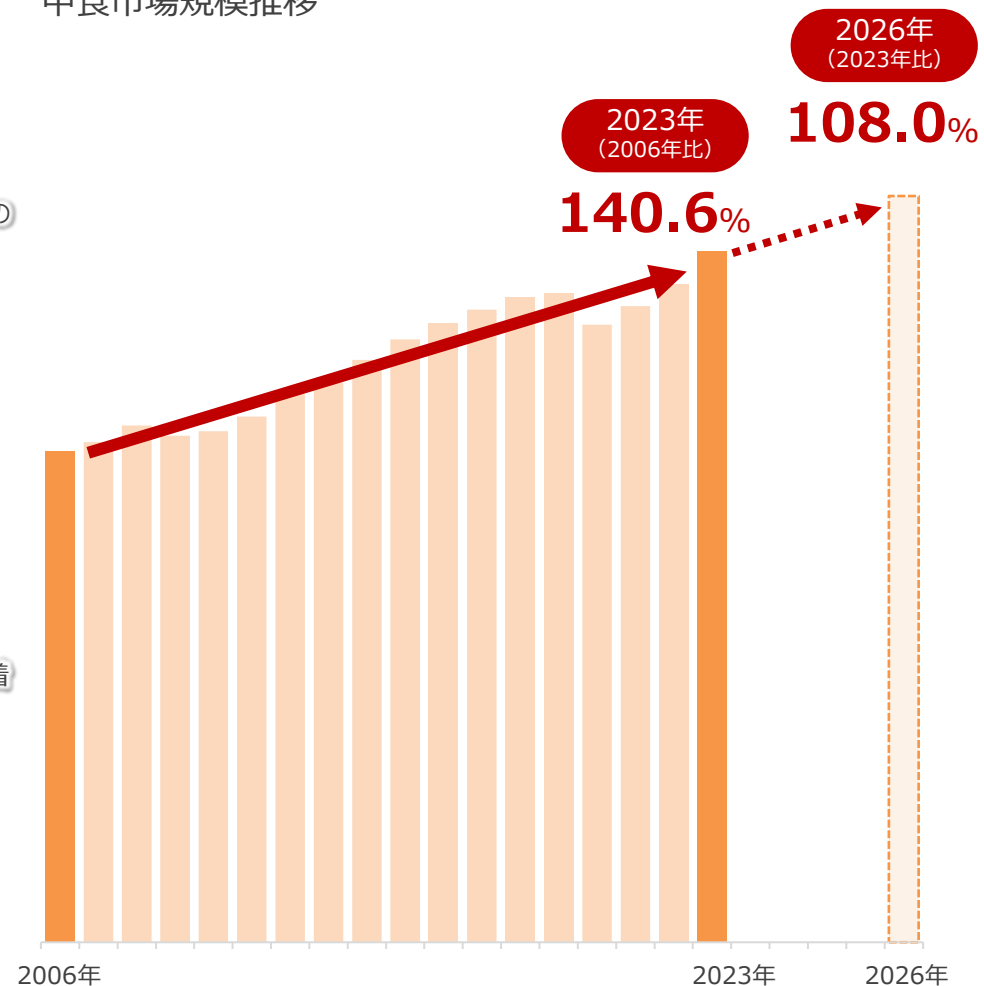


中食市場の拡大

出典：一般財団法人 日本惣菜協会「2024年版惣菜白書」



中食市場規模推移



食品容器マーケットの推移と当社業績の拡大

マーケットの変化に応じた製品を提供／当社製品がマーケットの変化を創出

スーパーマーケット

+

コンビニエンスストア

+

食品メーカー（中食向け）

+

テイクアウト
デリバリー

冷凍食品

病院・介護施設

M&A

エコ・軽量化製品



マーケット変化の要因

人手不足

食品ロス

原料高騰

少子高齢化

業界再編

環境意識



(億円)

エフピコグループ売上高

2,000

1,500

1,000

500

0

蓋付トレイ



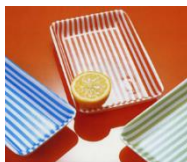
オリジナル製品



エコトレイ



カラートレイ



白トレイ



1970

1980

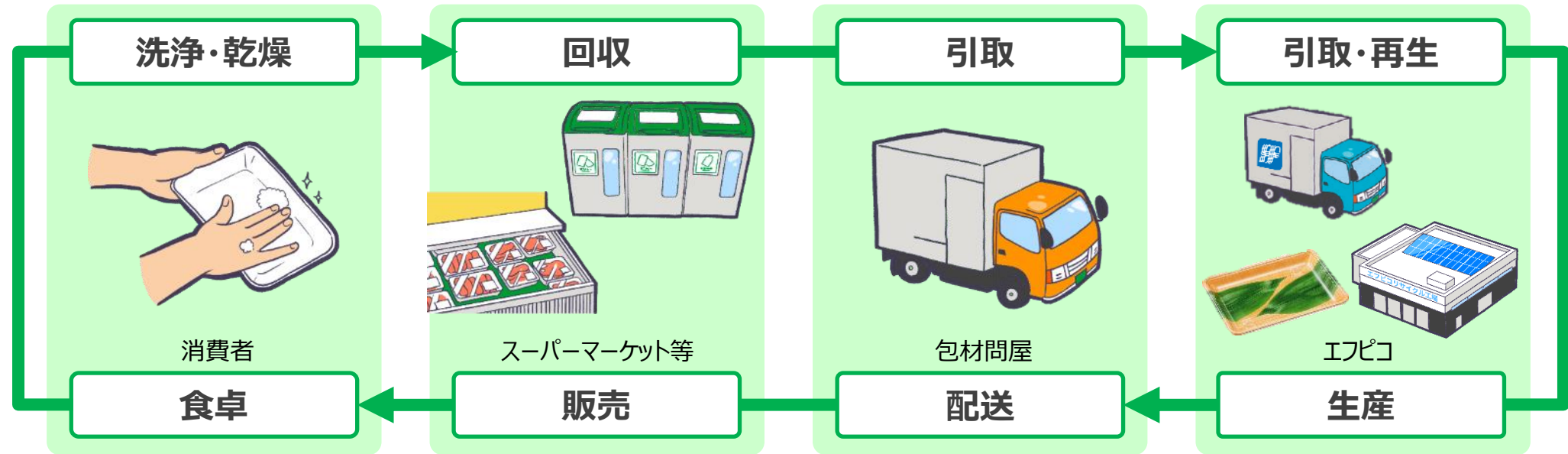
1990

2000

2010

2020

エフピコ方式のリサイクル



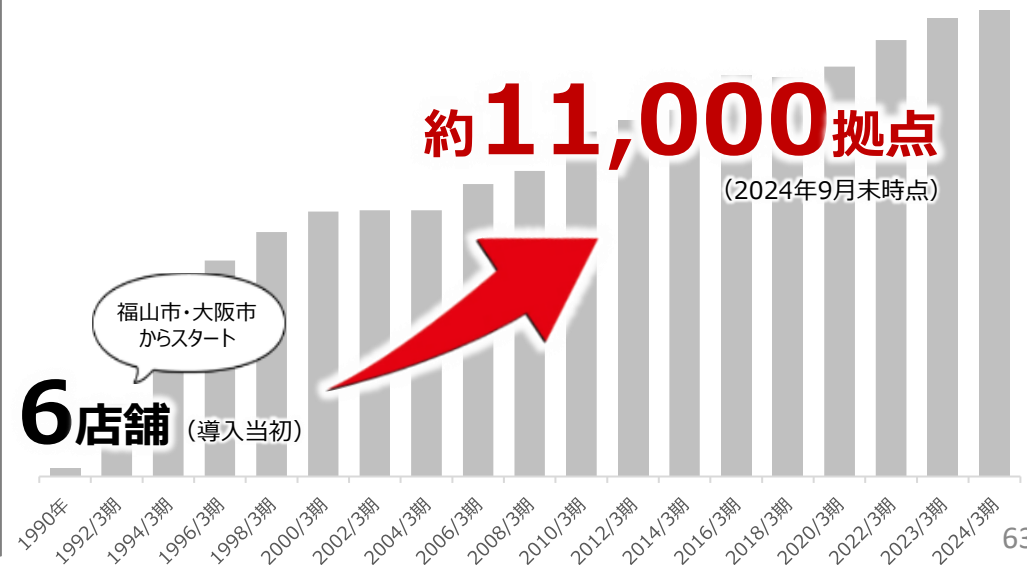
歴史

容器包装から
紙包装へ変更

- 1980年 広島ゴミ問題
- 1990年 米国 マクドナルド不買運動
- 1990年 エフピコ方式のリサイクル開始**
- 1992年 「エコトレー」の販売開始**
- 1995年 容器包装リサイクル法制定
- 1997年 京都議定書
- 2008年 透明容器のリサイクル開始**
- 2011年 PETボトルのリサイクル開始**
- 2012年 「エコAPET」の販売開始**
- 2015年 パリ協定
- 2021年 プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律制定



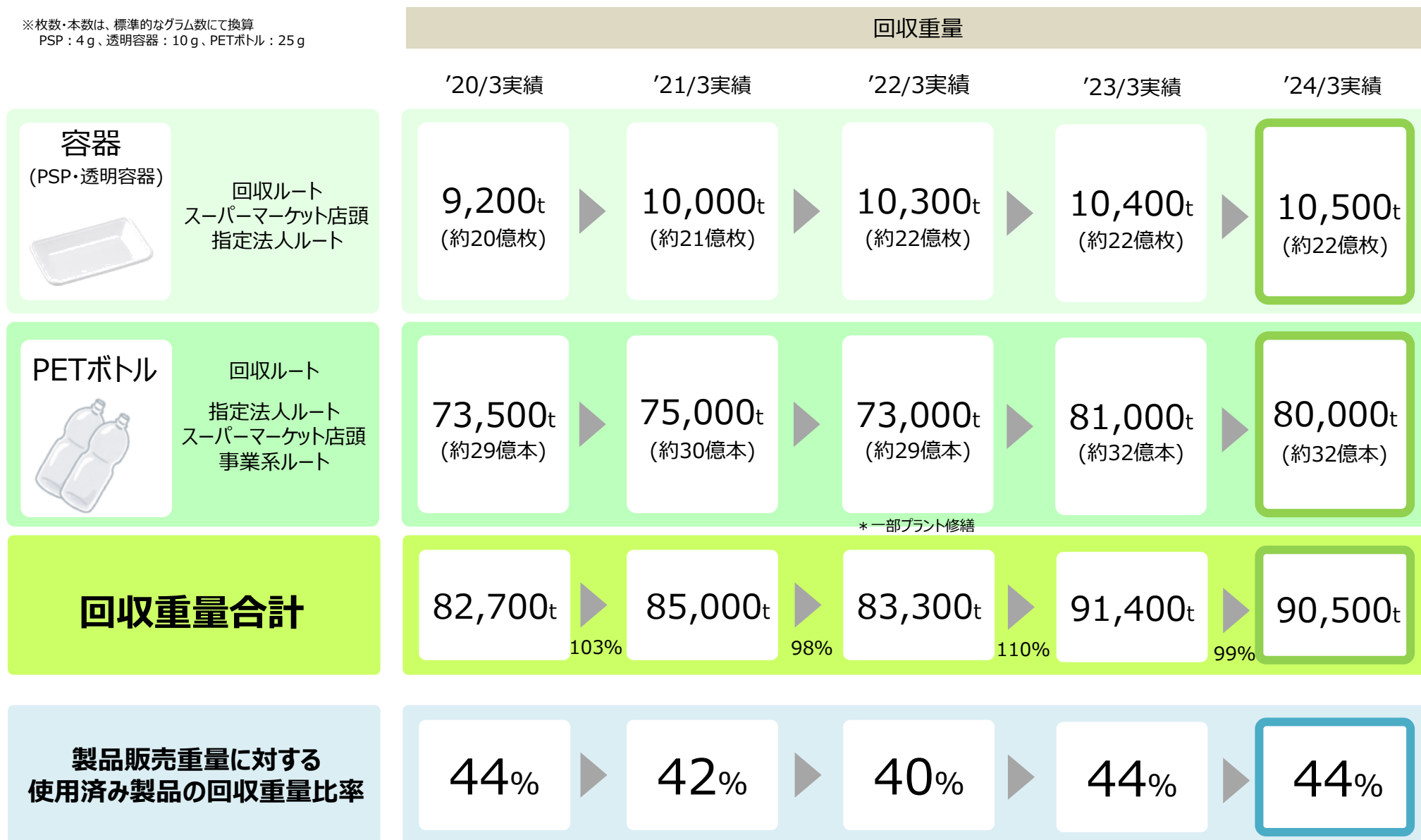
回収拠点数



プラスチック資源の回収



※枚数・本数は、標準的なグラム数にて換算
PSP：4 g、透明容器：10 g、PETボトル：25 g



全国を網羅する生産・物流拠点

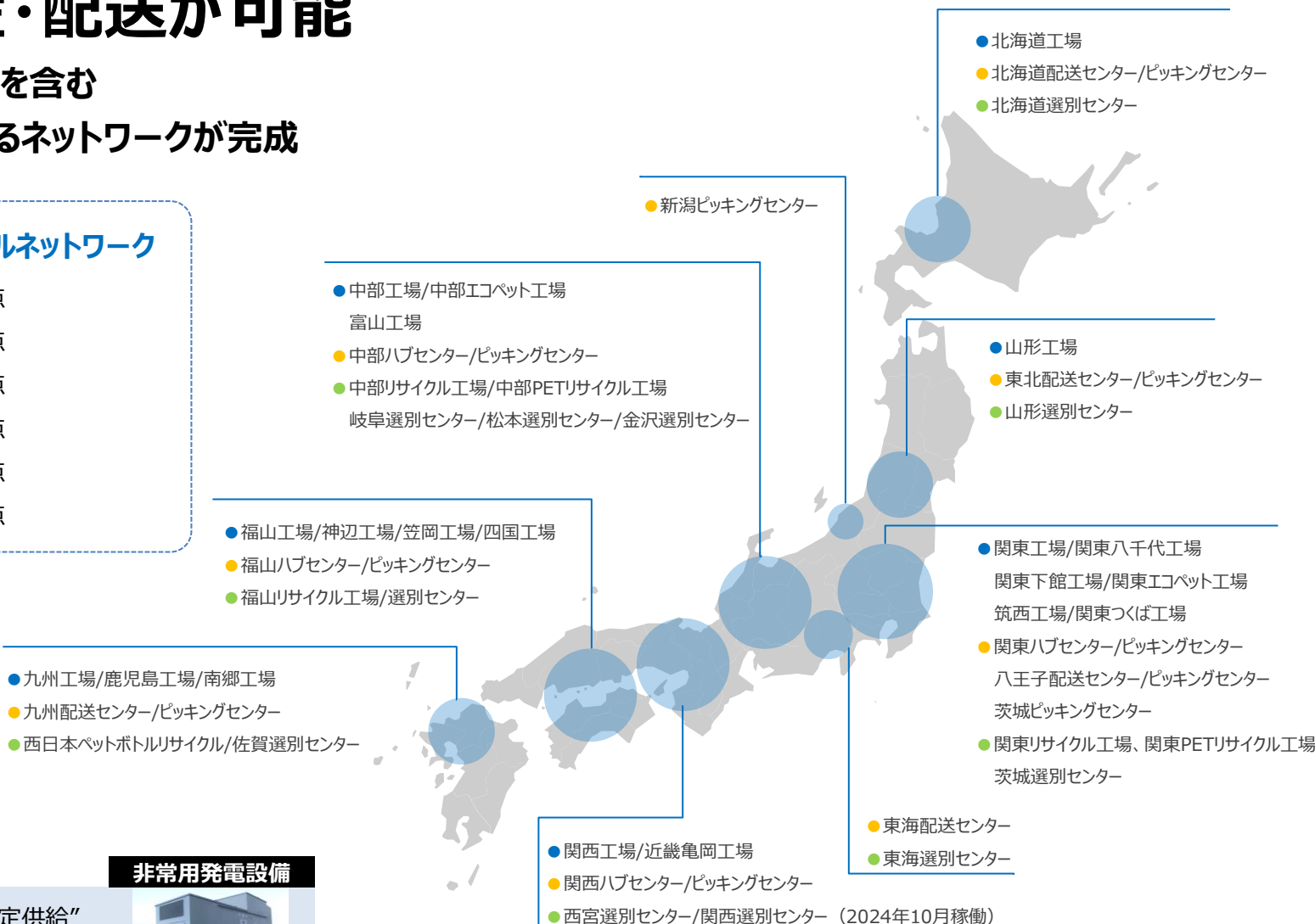
各エリアで 生産・配送が可能

半径100kmで主要都市を含む

全人口の85%をカバーするネットワークが完成

エフピコの製造・物流・リサイクルネットワーク

● 生産工場	20拠点
● 配送・ハブセンター	9拠点
● ピッキングセンター	10拠点
● リサイクル工場（PSP）	3拠点
● PETリサイクル工場	3拠点
● 選別センター	11拠点



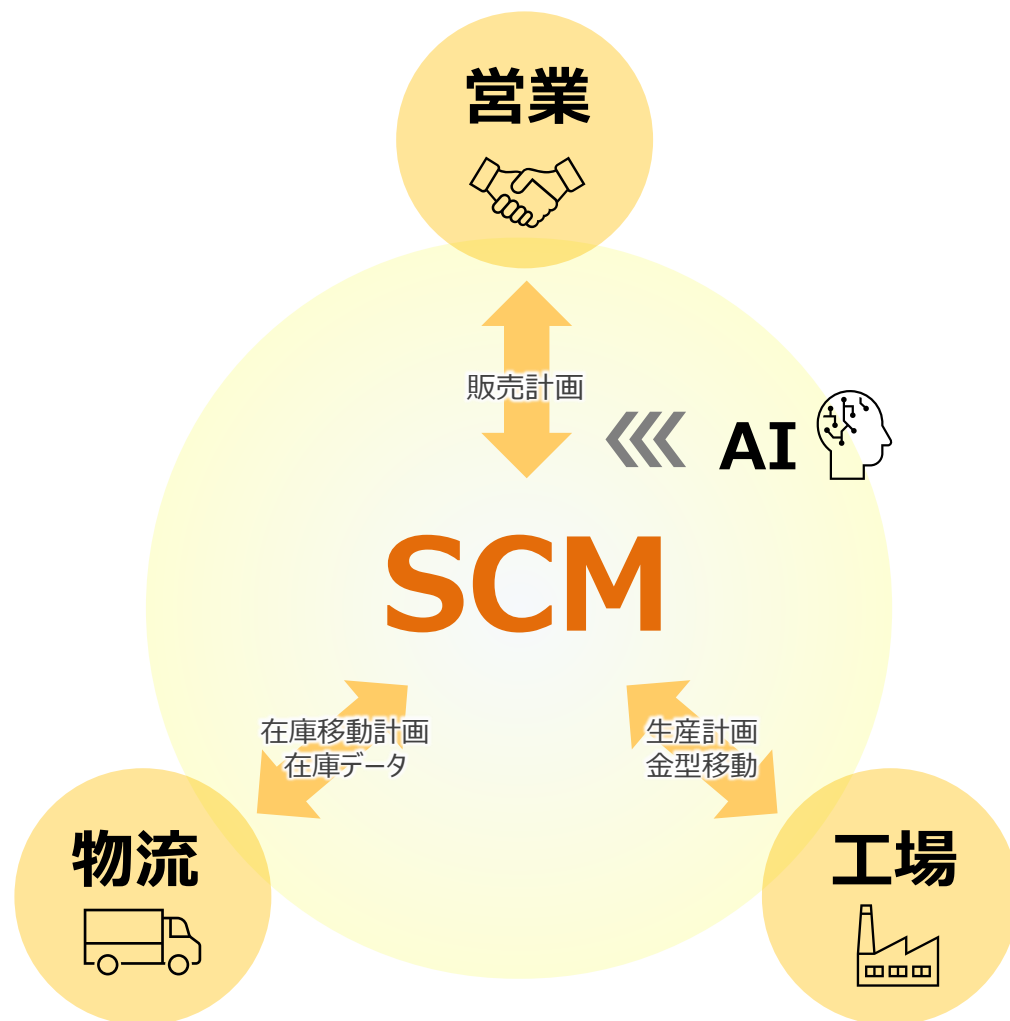
非常用発電設備



B C P (事業継続計画) “災害時の安定供給”
全国の物流施設すべてに非常用発電設備を設置
72時間の電力供給を確保

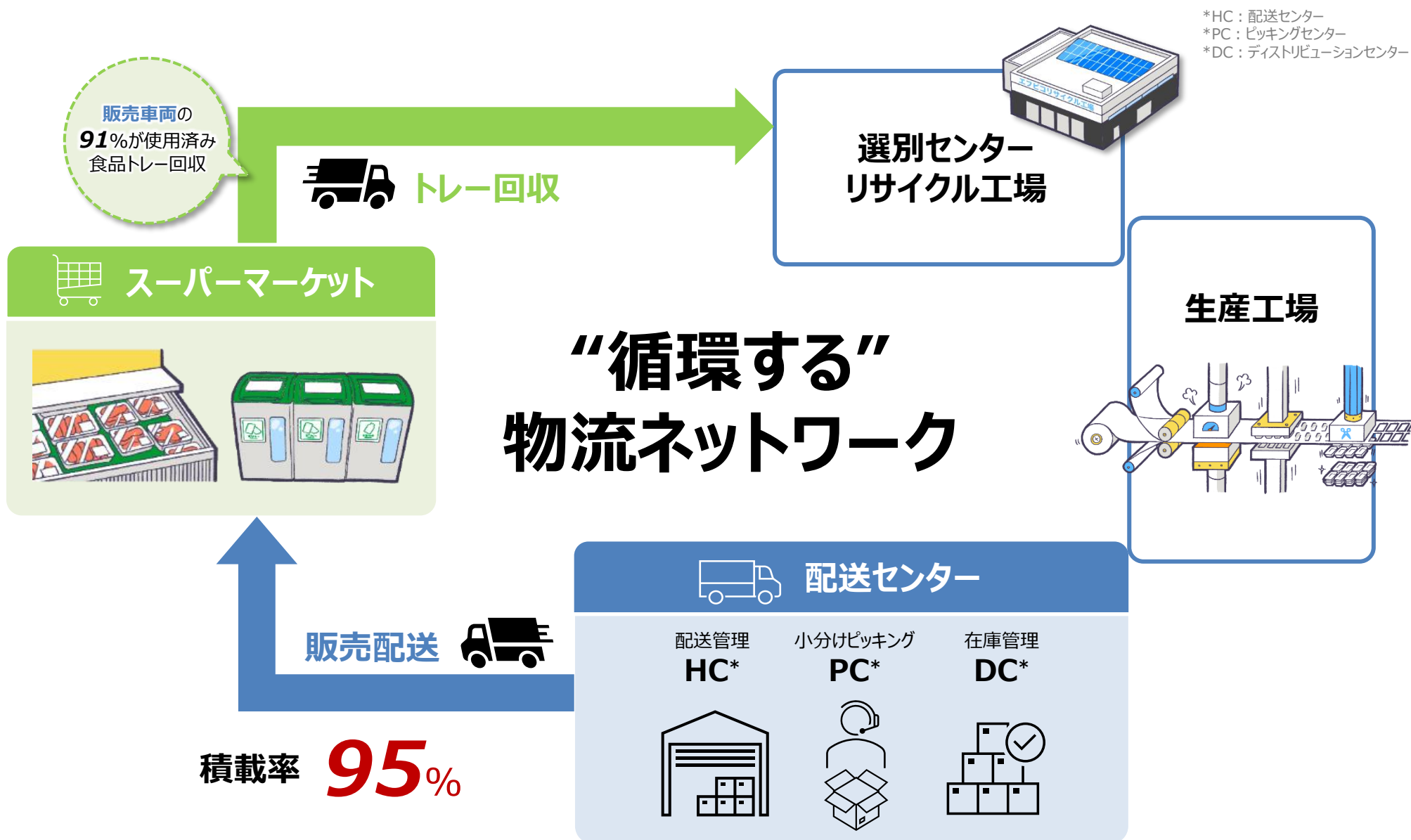
サプライチェーン・マネジメントシステム（SCM）

安全・安心な食生活を支える**安定供給**



- ✓ 約**12,000**アイテムの品揃え
- ✓ 適切な在庫水準を維持
- ✓ AI活用による
販売予測の精度向上・効率化

エフピコの物流の特徴①



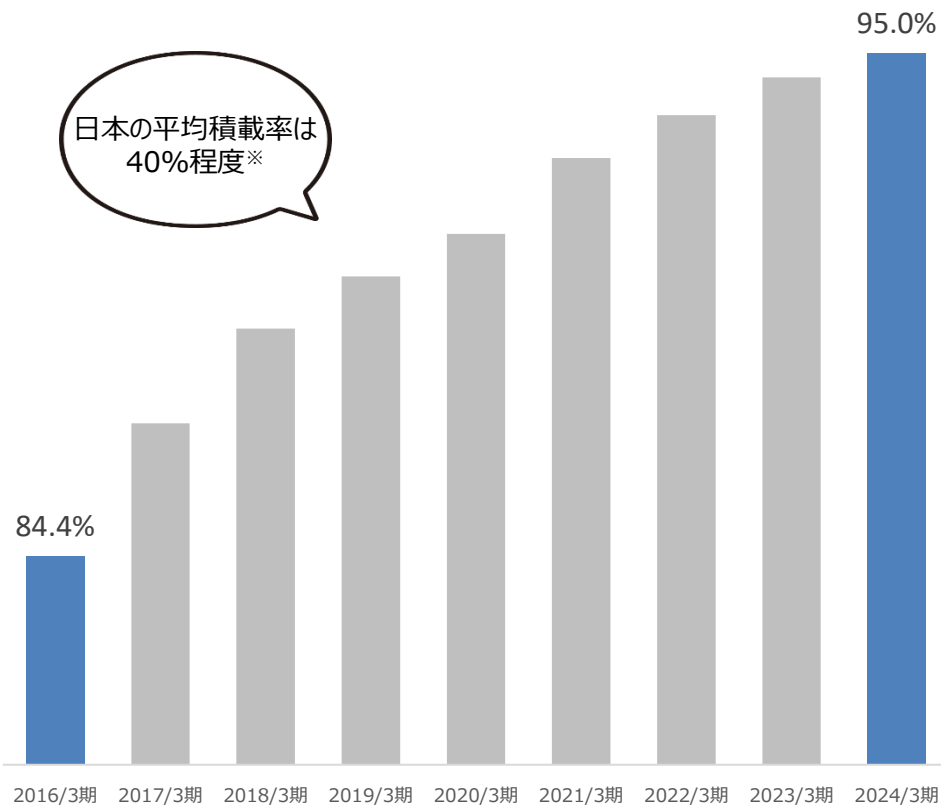
エフピコの物流の特徴②

※出展：経産省・国交省・農水省データ

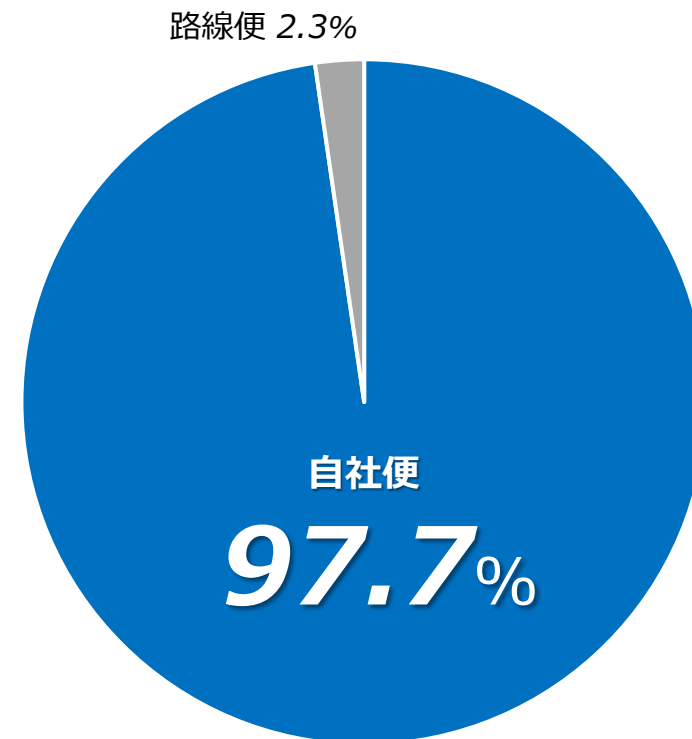
積載率推移

2024年3月期
2016年3月期比 **112.5%**

日本の平均積載率は
40%程度※



自社便比率 (2024年3月期)



人材の確保・定着に向けた投資① 自動化・省力化



単純なモノの移動の省人化

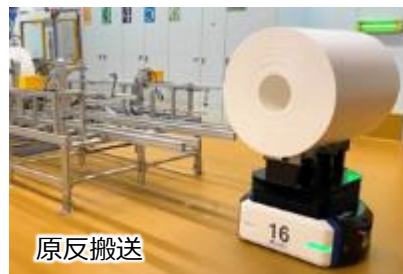
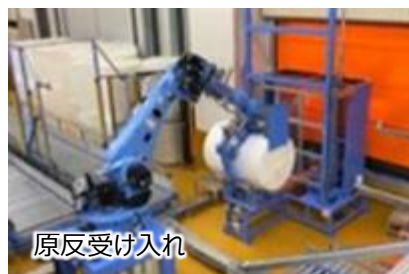
重労働の軽作業化



頻度の高い作業の省人化



生産部門



物流部門



- AGV : 33台 ('24/3期)
- AGF : 6台 ('24/3期)
- ソーター : 5センターに導入

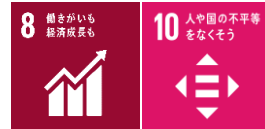
自動化設備導入による効果

就労環境の改善

職域の拡大

付加価値業務への人員振替が可能

人材の確保・定着に向けた投資② 待遇改善



2019年3月期 退職金制度の拡充

2021年3月期 給与水準向上（深夜労働手当等の改定）

2024年3月期 製造・物流会社における現場社員を対象に

- ・給与水準平均10.7%の大幅な改定
- ・初任給の引き上げ
- ・休日日数の増加

製造・物流会社における離職者数

前年比 **63名減少**

（自己都合のみ、2023/4～2024/3 実績）

2025年3月期 給与水準平均5%の改定

前年同期比 **13名減少**

（自己都合のみ、2024/4～2024/9 実績）

外部評価機関によるESG評価

レーティング

FTSE (英)

(2023年6月) (2024年6月)

3.8 → 4.0

MSCI (米)

(2023年3月) (2024年5月)

BB → BB

CDP (英)

(2022年12月) (2024年2月)

A- → A



SUSTAINALYTICS (蘭)

(2022年11月) (2023年12月)

14.4 → 13.9

※低い程良い

ESG指数



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

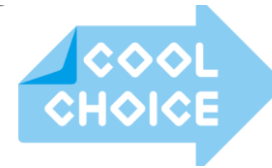


2024 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

Morningstar
Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index (GenDi J)

その他外部機関からの評価・活動

外部評価



環境関連参画団体



能力を最大限に活かすダイバーシティ経営

エフピコグループの基幹業務で活躍

障がい者雇用人数

393名

障がい者雇用率換算数

662名

障がい者雇用率

12.6%

(2024年3月末時点)



製造

食品トレー容器の成形、
組立加工、検品、包装



選別

使用済み食品トレー
透明容器

お客様の障がい者雇用をサポート

エフピコをサポートで
お取引様を中心に

53事業所 760名

の雇用が生まれました
(2024年3月末時点)



● 障がい者雇用に関する評価

- ▶ 2024年9月（東洋経済新報社）「障害者雇用率ランキング」 3位
- ▶ 2022年6月（厚労省）「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定（もにす認定）」 ※エフピコダックス(株)
- ▶ 2019年1月（厚労省）「H30年度 障害者活躍企業」認証 ※エフピコダックス(株)





1990年 「エフピコ方式のリサイクル」をスタート

2020年3月 「エフピコ環境基金」を創設
これからの社会的課題の解決をテーマに活動する団体への助成

助成実績

2021年3月期： 10団体

2022年3月期： 14団体

2023年3月期： 14団体

2024年3月期： 22団体

2025年3月期： 17団体



助成先団体の活動（一部紹介）

エフピコグループ社員もボランティアとして参加

● 瀬戸内海宇治島クラブ（広島県）



<活動内容>

宇治島サニーアイランド・
グリーン作戦

● 湘南クリーンエイドフォーラム（神奈川県）



<活動内容>

～拾って調べて繋げる活動～
調べるビーチクリーンの
普及プロジェクト

施設見学のご案内

【随時受付】経営企画室：03-5325-7756

最新鋭の **生産** **物流** **リサイクル** をご覧いただけます

